

令和 6 年度

65 期生

1 年次シラバス

65 期生	クラス	学籍番号	氏名
-------	-----	------	----

長野県農業協同組合連合会
佐久総合病院看護専門学校

シラバスについて

1. 本校で履修する分野は、基礎分野・専門基礎分野・専門分野に大別される。

これらの分野に、それぞれ規定の科目・単位・時間数が表記されている。

2. 1年次は主に基礎分野・専門基礎分野・専門分野の履修、2年次は主に専門基礎分野・専門分野の履修、3年次は主に専門分野の臨地実習を履修する。

3. 各科目は全て必修科目である。卒業までに3151時間・107単位全てを履修・修得しなければならない。

4. 講義は、時間割とシラバスを確認し臨む。

5. 記載内容は、科目名・講義開始時期・単位数・時間数・担当講師・科目目標・講義回数・主要内容・評価方法・使用テキスト・受講時の注意事項である。

6. 科目の評価は、授業途中での課題提出や講義終了後の筆記試験等で評価をなる。

7. このシラバスは、年度はじめに該当学年のものが閲覧できる。

8. 卒業後も使用する可能性があるため、各自で保管する。

2024年度（65期生・1年次） 講師・試験一覧

2024年4月4日現在

教育内容		科目名	単位	時間	講師	配点
基礎分野	1	情報科学	1	15	林ゆかり	100
	2	日本語表現	1	30	金子光代	100
	3	看護に必要な数計算	1	15	畠山啓吾	100
	4	コミュニケーション論Ⅰ（生涯発達心理学）	1	30	石毛いづみ	100
	5	コミュニケーション論Ⅱ（カウンセリング論）	1	30	金高茂昭	100
	6	コミュニケーション論Ⅲ（ピア・サポート論）	1	26	菊池典子	100
	7	コミュニケーション外国語Ⅰ（英会話）	1	20	マーク・コックス	100
	8	コミュニケーション外国語Ⅱ（中国語）	1	15	原志津子	100
	9	看護における倫理学	1	30	徳永哲也・八尋道子	50・50
	10	情報倫理とICT活用	1	15	院内講師	100
	11	社会学	1	26	京谷栄二	100
	12	国際化と看護	1	15	院内講師	100
	13	健康な身体作り	1	20	片桐学	100
	14	感性を磨く！	1	24	高橋喜久子・渡辺和美・他	100
	15	農村医学Ⅰ	1	30	医師、本所部長	100
専門基礎分野	16	解剖生理学Ⅰ	1	30	金澤美樹	100
	17	解剖生理学Ⅱ	1	30	金澤美樹	100
	18	解剖生理学Ⅲ	1	30	金澤美樹	100
	19	解剖生理学Ⅳ	1	30	金澤美樹	100
	20	解剖生理学Ⅴ	1	15	伏見礼子・渡辺和美・清水真旗	100
	21	栄養生化学	1	20	栗林正彦	100
	22	栄養・食事療法	1	20	高橋美佳・寺澤綾花・看護師	100
	23	基礎薬理学	1	15	栗林正彦	100
	24	病態生理学	1	30	金澤美樹	100
	25	保健チーム医療論	1	15	夏川周介	100
	26	公衆衛生学	1	15	福本皇	100

教育内容	科目名	単位	時間	講師	配点
専門分野	27 看護学概論	1	30	大河原あゆみ	100
	28 共通基本技術 看護技術・コミュニケーション・安全 環境	2	30 20	白田明美 渡辺和美	60 40
	29 生活支援技術 1 活動と休息 清潔と衣生活	1	14 16	池田葉子 清水真旗	50 50
	30 生活支援技術 2 食事 排泄	1	14 16	伏見礼子 中島正和	50 50
	31 看護過程展開論 1	1	30	内藤英子・渡辺和美・池田葉子 清水真旗・伏見礼子	100
	32 診療に伴う援助技術 1 与薬 検査	1	24 6	池田葉子 中島正和	80 20
	33 診療に伴う援助技術 2 呼吸を整える 吸引・吸入 救命	1	8 14 8	伏見礼子 森泉美波 厚生連事業所	40 40 20
	34 フィジカルアセスメント	1	30	田中高政・坂本静	100
	35 気づきのトレーニング I	1	15	森泉美波・坂本静・原田愛 中島正和・渡辺和美	100
	36 成人看護学概論	1	30	佐藤みどり・坂本静	100
	37 老年看護学概論	1	30	伏見礼子	100
	38 老年看護学援助論 1 嚥下 皮膚排泄ケア	1	16 8 6	佐藤みどり・坂本静 上野静香・小林静香 内堀順子	40 30 30
	39 小児看護学概論	1	30	鈴木文子	100
	40 母性看護学概論	1	28 2	原田愛 助産師	100
	41 精神看護学概論	1	30	中島正和	100
	42 地域・在宅看護援助論ZERO	1	20	内藤英子・佐藤みどり	100
	43 地域・在宅看護概論	1	22 8	加藤二三和 院内講師	70 30
	44 健康を維持するための活動 I	1	15	白田あけみ・池田葉子他	100

科目名	情報科学	学年学期	単位数	時間数
		1学年 前期	1	15
時間割表記名	情報科学	講義担当教員 外部講師		
科目のねらい 情報社会に対応できるよう、医療分野における基礎的な知識と実践を学ぶ。				
学習目標 パソコンの基本的操作を理解し機能を活用できる				
ディプロマ・ポリシーとの関連性				
☐	1. 感じ取る力	価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く		
☒	2. 実践する力	専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度		
☐	3. 実践する力	地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践		
☐	4. 連携・協同する力	多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割		
☐	5. 成長する力	専門職業人としての自覚・自ら学び続ける		
授業の流れ				
回	学習内容		方法・必要なもの	
1	コンピューターの基本的操作（Wi-Fi環境・接続、Windowsなど）		講義	
2	コンピューターの基本的操作（Wordの基礎・タイピング、保存法など）		講義・演習	
3	コンピューターの基本的操作（Wordの応用、レポート作成方法など）		講義・演習	
4	コンピューターの基本的操作（Wordの応用、タイピング試験など）		講義・演習	
5	統計の概念と方法（エクセルの基礎と応用）		講義・演習	
6	統計の概念と方法（データの整理・グラフ活用）		講義・演習	
7	統計の概念と方法（パワーポイントの基礎）		講義・演習	
8	統計の概念と方法（パワーポイントの応用）プレゼンテーション		課題学習	
	試験			
事前学習・事後学習内容 事前にテキストを読んで授業に臨みましょう。			評価方法 課題提出にて評価し総合的に評価する	
使用するテキスト ・イチからしっかり学ぶ！ Office基礎と情報モラル2021（noa出版）		参考文献		
受講生へのメッセージ 私たちは発展してきた情報社会の中で看護活動を行っていかなくてはなりません。 そのためにも、基本的なパソコン操作の技術を学び医療分野で活用できるようにしていきましょう。				

科目名	日本語表現	学年学期	単位数	時間数
		1学年 前期	1	30
時間割表記名	日本語表現	講義担当教員 外部講師		
科目のねらい				
自己表現と相手に伝わるための論理的な文章の展開方法を学ぶ。 また、意識して文章の構成を考えて表現する方法を学ぶ。				
学習目標				
論理的文章の組み立て方を学び、自分の考えを表現でき、他者に伝えることができる				
ディプロマ・ポリシーとの関連性				
■	1. 感じ取る力	価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く		
■	2. 実践する力	専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度		
■	3. 実践する力	地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践		
□	4. 連携・協同する力	多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割		
■	5. 成長する力	専門職業人としての自覚・自ら学び続ける		
授業の流れ				
回	学習内容		方法・必要なもの	
1	日本語のいろいろ（適切な日本語）		講義	
2	言葉が意味するもの		講義	
3	相手への印象を意味づける言葉		講義	
4	敬語（敬語の種類と使いわけ）、丁寧語・謙譲語		講義	
5	敬語（注意すべき敬語）		講義	
6	敬語（配慮を示す言葉）		講義	
7	ロールプレイ（立場の違う人との会話）		演習	
8	文法（品詞・活用の種類）		講義	
9	言葉の遣い方・選び方		講義	
10	話ことばと、書き言葉		講義	
11	時候に合わせた文章表現		講義	
12	ロールプレイ（立場の違う人との手紙のやりとり）		演習	
13	レポートの書き方（引用の仕方）		講義	
14	題名を決めて実際レポートを書いてみる例「病院の役割」		講義	
15	レポートのまとめ		講義	
	試験			
事前学習・事後学習内容 事前にテキストを読んで授業に臨みましょう。			評価方法 筆記試験(100点)	
使用するテキスト ・書きこみ式 日本語表現法（名古屋大学日本語表現研究会）			参考文献 なし	
受講生へのメッセージ 看護師は患者やその家族のみならず、様々な医療スタッフと関係を構築していく必要があります。そのためにも、自己を表現したり、論理的に文章を考えたりする力が求められます。この科目を通して、ぜひ看護師として必要な自己表現や論理的文章能力を高めていきましょう。				

科目名 看護に必要な数計算		学年学期	単位数	時間数
		1学年 学年	1	15
時間割表記名 看護に必要な数計算		講義担当教員 外部講師		
科目のねらい 物理学や数計算の基本的な原理を理解し、看護実践に必要な能力を養う。				
学習目標 1. 物理学の原理原則や数計算の方法が理解できる 2. 看護領域における物理学や数計算の必要性を理解できる 3. 看護実践に活用するための物理学の知識や数計算の方法を学ぶ				
ディプロマ・ポリシーとの関連性 ☐ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く ☒ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 ☒ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 ☐ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 ☐ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける				
授業の流れ				
回	学習内容		方法・必要なもの	
1	看護に必要な数計算とは・種類・必要性、力学・熱量		講義	
2	気圧・圧力、栄養（点滴・経管栄養）の計算		講義	
3	溶液（濃度計算）・割合・比の計算 肥満度の計算（カウプ・ローレル・BMI）		講義	
4	酸素流量と酸素濃度、酸素ボンベ残量の計算		講義	
5	移動動作に必要な力の加減（スカラー量とベクトル量） 体位変換に役立つトルクの知識 「てこの原理」含む		講義	
6	仕事とエネルギー（Jジュールとcalカロリー） 安定・不安定（重心）、看護にかかわる作用・反作用		講義	
7	看護と摩擦、酸・アルカリとpHの関係、浸透圧の知識		講義	
8	まとめ		課題学習	
	試験			
事前学習・事後学習内容 事前にテキストを読んで授業に臨みましょう。			評価方法 筆記試験（100点）	
使用するテキスト 物理学（医学書院）			参考文献 ベッドサイドを科学する 改訂第3版（Gakken）	
受講生へのメッセージ これまで学習してきた計算や物理学の知識は看護の実践にも役立てることができます。 その具体的な方法を学習し今後の看護実践に活用できるようにしましょう。				

科目名 コミュニケーション論Ⅰ（生涯発達心理学）		学年学期	単位数	時間数
		1学年 前期	1	30
時間割表記名 生涯発達心理学		講義担当教員 外部講師		
科目のねらい さまざまな年齢・発達段階においての心身の発達の特徴や人間の行動、人間関係の成立についての心理学の基礎的知識を学ぶ。				
学習目標 1. 発達段階別の人の心の発達や動き、意識や行動の原理についてわかる。 2. 自己と他者のあり方、対人関係の中で生じる心の動きについて知る。				
ディプロマ・ポリシーとの関連性 ■ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く □ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 □ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 □ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 ■ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける				
授業の流れ				
回	学習内容			方法・必要なもの
1	心理学とは 自己を知る・他者を知る			講義
2	円滑なコミュニケーションに向けて			講義
3	発達段階別：発達心理学・発達理論（新生児から学童期）			講義
4	発達段階別：発達心理学・発達理論（成人期）			講義
5	発達段階別：発達心理学・発達理論（老年期）			講義
6	さまざまな心理学 知覚心理学			講義
7	さまざまな心理学 認知心理学			講義
8	さまざまな心理学 学習心理学			講義
9	さまざまな心理学 臨床心理学			講義
10	パーソナリティ理論・自己理解			講義
11	パーソナリティ理論・他者理解			講義
12	ストレスとその影響・ストレスコーピング			講義
13	ストレスとその影響・ストレスコーピング			講義
14	性格と自己分析			講義・演習
15	まとめ			講義
	試験			
事前学習・事後学習内容				評価方法 ・筆記試験（100点）
使用するテキスト 基礎から学べる医療現場で役立つ心理学（ミネルヴァ書房）				参考文献
受講生へのメッセージ 自分のことを知るきっかけとなります。自分のことを知ることで様々な対処方法がわかってきます。まずは自分としっかり向き合っていきましょう。				

科目名 コミュニケーション論Ⅱ（カウンセリング論）		学年学期	単位数	時間数
		1学年 通年	1	30
時間割表記名 カウンセリング論		講義担当教員 外部講師		
科目のねらい 人間関係形成に役立つ、カウンセリングの理論と、カウンセラーの基本技術である共感・受容・自己一致を学ぶ。				
学習目標 1 人間関係の確立の基礎としてのカウンセリングの基本的な知識と技術がわかる。 2 相手の考えや思いを理解し、心理的援助ができる基礎的方法がわかる。				
ディプロマ・ポリシーとの関連性 ■ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く ■ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 □ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 ■ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 ■ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける				
授業の流れ				
回	学習内容		方法・必要なもの	
1	カウンセリングとは		講義	
2	人間関係構築に必要なコミュニケーション		講義	
3	自己一致と人間関係の中の他者理解		講義	
4	カウンセリングに必要な姿勢 人に伝える		講義	
5	カウンセリングに必要な姿勢 話を聞く		講義	
6	カウンセリングに必要な姿勢 共感		講義	
7	カウンセリングに必要な姿勢 受け止める		講義	
8	カウンセリングに必要な姿勢 対話・言い換え		講義	
9	さまざまな場面での相手を知る（ロールプレイングとフィードバック）		講義・演習	
10	さまざまな場面での相手を知る（ディスカッションとフィードバック）		講義・演習	
11	さまざまな場面での相手を知る（ディベートとフィードバック）		講義・演習	
12	コーチングとは		講義・演習	
13	アサーティブコミュニケーション		講義・演習	
14	アンガーマネジメント		講義	
15	まとめ		講義	
	試験			
事前学習・事後学習内容			評価方法 ・筆記試験（100点）	
使用するテキスト はじめてふれる人間関係の心理学（サイエンス社）			参考文献	
受講生へのメッセージ 相手を知ることが大切となります。自分の思い行動がどのように相手に影響するのかを考えながら、人と接することが大切です。相手のことを常に考えながら自分の位置を考えていきましょう。				

科目名 コミュニケーション論Ⅲ（ピア・サポート論）		学年学期	単位数	時間数
		1学年 通年	1	26
時間割表記名 ピア・サポート論		講義担当教員 外部講師		
科目のねらい 相互の人間関係を豊かにするため、同じ立場にいる人を支えるための相互支援と協同できるコミュニケーション方法を学ぶ。				
学習目標 1 仲間を思いやり支えあう気持ちが芽生える。 2 様々な技法を用いて互いに尊重しあえる環境がつかれる。				
ディプロマ・ポリシーとの関連性 ■ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く ■ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 ■ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 ■ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 ■ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける				
授業の流れ				
回	学習内容			方法・必要なもの
1	ピアサポートとは			講義
2	ピアサポートの役割			講義
3	自己理解・互いを知る			講義・演習
4	共感する、サポート・信頼・ストローク、コミュニケーションスキル			講義・演習
5	問題解決・課題解決スキル、アサーション、エンカウンター			講義・演習
6	発信・伝える			講義・演習
7	ナラティブ・プレゼンテーション			講義・演習
8	ナラティブ・プレゼンテーション			講義・演習
9	認め合い・高めあい・つながっていく			講義・演習
10	チーム力・			講義・演習
11	ピアサポートのまとめ発表			
12	ピアサポートのまとめ発表			
13	まとめ			講義
事前学習・事後学習内容		評価方法 ・レポート課題 ・講義への取り組み状況		
使用するテキスト なし		参考文献		
受講生へのメッセージ 伝える技法と聴く技法をしっかり学び、お互いに心や力を通わせながら生活できるようになってほしいです。				

科目名 コミュニケーション外国語 1（英会話）		学年学期	単位数	時間数
		1学年 前期	1	20
時間割表記名 英会話		講義担当教員 外部講師		
科目のねらい 日常的な挨拶と看護に必要な医療用語を学習し、対象にあった対応を学ぶ。				
学習目標 1. 日常英会話・挨拶ができる。 2. 医療現場に必要な英語がわかる。				
ディプロマ・ポリシーとの関連性 ☒ 1. 感じ取る力 ☐ 2. 実践する力 ☒ 3. 実践する力 ☐ 4. 連携・協同する力 ☒ 5. 成長する力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける				
授業の流れ				
回	学習内容		方法・必要なもの	
1	英会話の必要性		講義	
2	挨拶・自己紹介		講義・演習	
3	自己紹介		講義・演習	
4	医療英語を覚えよう。（身体各部、健康状態を示す用語、症状を示す用語）		講義・演習 ポストテスト	
5	医療英語を覚えよう。（身体各部、健康状態を示す用語、症状を示す用語）		講義・演習	
6	医療現場での英会話 患者に対応してみよう		講義・演習	
7	問診してみよう		講義・演習	
8	症状を聞いてみよう		講義・演習 ポストテスト	
9	病院内を案内してみよう		講義・演習	
10	薬の説明をしてみよう		講義・演習	
	試験			
事前学習・事後学習内容 海外のニュースや海外ドラマに興味を持ちましょう。			評価方法 ・ポストテスト（20点） ・筆記試験（80点）	
使用するテキスト なし			参考文献	
受講生へのメッセージ 英会話を通して、外国人の方とのコミュニケーション力を向上させていきましょう。				

科目名 コミュニケーション外国語2（中国語）		学年学期	単位数	時間数
		1学年 後期	1	15
時間割表記名 中国語		講義担当教員 外部講師		
科目のねらい 日常的な挨拶と看護に必要な医療用語を学習し、対象にあった対応を学ぶ。				
学習目標 1. 日常会話・挨拶ができる。 2. 医療現場に必要な中国語がわかる。				
ディプロマ・ポリシーとの関連性 ■ □ ■ □ ■ 1. 感じ取る力 2. 実践する力 3. 実践する力 4. 連携・協同する力 5. 成長する力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける				
授業の流れ				
回	学習内容			方法・必要なもの
1	中国語への導入、数の数え方			講義・演習
2	基本表現（挨拶、自己紹介）、身体部分の名称を覚えるなど			講義・演習
3	医療用語を覚える			講義・演習
4	医療現場などで使う会話練習			講義・演習
5	会話練習・復習、日常生活での必要な会話など			講義・演習
6	発音の確認や会話練習、復習			ポストテスト 講義・演習
7	ポストテストの振り返り、中国語で歌ってみよう			講義・演習
8	全体の総復習			講義・演習
	試験			
事前学習・事後学習内容 海外のニュースや海外ドラマに興味を持ちましょう。			評価方法 ・参加度、講義内の試験、レポート	
使用するテキスト 耳で覚える中国語 今日から使えるひと言フレーズ(高橋書店)		参考文献 なし		
受講生へのメッセージ 地域で暮らしている中国の人が大勢います。その人々の暮らしを知り理解を深められるよう、積極的に学んでいきましょう。				

科目名	看護における倫理学	学年学期		単位数	時間数
		1学年	通年	1	30
時間割表記名	看護における倫理学	講義担当教員		担当教員：鈴木 外部講師（哲学、看護倫理）	
科目のねらい					
人間としてのあり方や生き方を深く考える。物事の善悪・道徳・価値観について学び 相手を尊重し、倫理に基づく行動の基礎的知識を学ぶ。					
学習目標					
倫理や哲学について基本的な知識を学び、看護に必要な倫理観を養うことができる。					
ディプロマ・ポリシーとの関連性					
■	1. 感じ取る力	価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く			
■	2. 実践する力	専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度			
■	3. 実践する力	地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践			
■	4. 連携・協同する力	多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割			
■	5. 成長する力	専門職業人としての自覚・自ら学び続ける			
授業の流れ					
回	学習内容				方法・必要なもの
1	哲学 哲学とは・人間とは				講義
2	哲学 倫理学から見る現代社会 功利主義・義務論・徳倫理学				講義
3	哲学 環境倫理				講義
4	哲学 生命倫理とは何か				講義
5	哲学 出生前診断、生殖ツーリズム、人工妊娠中絶				講義
6	哲学 安楽死・尊厳死、臓器移植				講義
7	哲学 生命倫理と看護職の責務 インフォームドコンセント				講義
8	哲学 守秘義務と個人情報保護				講義
9	看護倫理 看護倫理とは何か、看護倫理の歴史				講義
10	看護倫理 看護の倫理原則				講義
11					講義
12	看護倫理 アドボカシー、責務、協力、ケアリング				講義
13	看護倫理 専門職の倫理、看護師の倫理綱領				講義
14	看護倫理 看護師が直面する倫理的問題と解決方法				演習
15					講義・演習
事前学習・事後学習内容		評価方法			
事前にテキストを読んで授業に臨みましょう。		哲学 50点（課題提出） 看護倫理 50点（課題提出）			
使用するテキスト		参考文献			
・プラクティカル生命・環境倫理（世界思想社） ・看護倫理（医学書院）					
受講生へのメッセージ					
看護活動をしていく上で倫理は重要な分野になります。この科目で哲学や倫理を学び、自己の看護観や倫理観を養い、この先の看護活動に活かせるようにしてほしいと思います。					

科目名	情報倫理とICT活用	学年学期	単位数	時間数
		1学年 後期	1	15
時間割表記名	情報倫理とICT活用	講義担当教員 担当教員：中島 院内講師		
科目のねらい				
医療・看護の分野で、情報科学がどのように活用されているのかを、実際の体験を通して学ぶことができる。				
学習目標				
1.看護における情報の種類と活用方法を理解する 2.医療・看護におけるICT活用の実際を知る				
ディプロマ・ポリシーとの関連性				
☒ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く ☒ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 ☐ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 ☒ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 ☐ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける				
授業の流れ				
回			方法・必要なもの	
1	情報倫理、医療倫理、医療機関の個人情報対応 インターネット・SNS、医療情報管理		講義・グループワーク 授業後、学びと感想を提出	
2	情報倫理、医療倫理、医療機関の個人情報対応 インターネット・SNS、医療情報管理		講義・グループワーク 授業後、学びと感想を提出	
3	電子カルテ、診療情報、看護記録 看護者の責務・倫理		講義 授業後、学びと感想を提出	
4	ICT活用の実際 導入の目的、機能、実際		講義 授業後、学びと感想を提出	
5	オンライン診療の概要と実際		講義 授業後、学びと感想を提出	
6	事例検討会 個人ワーク・グループワーク		演習	
7	グループワーク・発表準備・発表		演習 授業後、学びと感想を提出	
8	まとめ		課題学習	
事前学習・事後学習内容		評価方法		
事前課題を学習してから授業に臨みましょう。		レポート 事前課題 学びと感想		
使用するテキスト		参考文献		
なし		・イチからしっかり学ぶ！Office基礎と情報モラル（noa出版） ・事例でわかる情報モラル（実教出版）		
受講生へのメッセージ				
近年、ITインフラの発展とともに、医療・看護の分野でも様々なIT技術が活用されています。 そのような中で看護活動していくために、情報の種類や活用方法を理解し、医療・看護の分野での実際のICTの活用を知る機会にして下さい。				

科目名	社会学	学年学期		単位数	時間数
		1学年	前期	1	26
時間割表記名	社会学	講義担当教員 外部講師			
科目のねらい 社会の構造や変化を学び、現代社会が抱える問題について考え 現代社会の中で生きる人間について学ぶ。					
学習目標 社会に関心を持ち、人間を理解し看護するために必要な社会背景を学ぶ					
ディプロマ・ポリシーとの関連性					
■ □ □ □ ■ 1. 感じ取る力 2. 実践する力 3. 実践する力 4. 連携・協同する力 5. 成長する力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける					
授業の流れ					
回	学習内容			方法・必要なもの	
1	社会学の基礎概念			講義	
2	社会学的視点とモデル			講義	
3	保健医療と社会学			講義	
4	社会調査の理論と技法			講義	
5	健康・病気・ストレスの新しい見方ととらえ方			講義	
6	健康・病気の社会的格差			講義	
7	「働き方」「働かせ方」と健康・病気			講義	
8	健康・病気行動と病経験			講義	
9	患者－医療者関係とコミュニケーション			講義	
10	保健医療の専門職			講義	
11	地域社会と保健医療			講義	
12	保健医療制度			講義	
13	保健医療の現代的变化の位相/ケアと医療・新しい地平を求めて			講義	
事前学習・事後学習内容 事前にテキストを読んで受講してください 自身が感じている「現代社会」とは、学習を通して看護に必要な知識を深めましょう				評価方法 レポート評価	
使用するテキスト 社会学（医学書院）		参考文献 国際化と看護（メディカ出版） 異文化理解とヘルスケア（ピラールプレス）			
受講生へのメッセージ 自身が感じている現代社会とは！ 社会に関心を持ち、移り行く社会背景に必要な看護を学んでいきましょう。					

科目名	国際化と看護	学年学期	単位数	時間数
		1学年 後期	1	15
時間割表記名	国際化と看護	講義担当教員 担当教員：鈴木 外部講師		
科目のねらい				
国際化に伴い多様化する人々の暮らしや、考え方を理解する。 また、農村地域やそこに暮らす人々の特徴を理解する。				
学習目標				
自国文化と異文化を知ること、医療の世界を考える視点を広げ国際的な見方や考え方を養う				
ディプロマ・ポリシーとの関連性				
■	1. 感じ取る力	価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く		
■	2. 実践する力	専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度		
■	3. 実践する力	地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践		
□	4. 連携・協同する力	多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割		
■	5. 成長する力	専門職業人としての自覚・自ら学び続ける		
授業の流れ				
回	学習内容		方法・必要なもの	
1	プライマリヘルスケアの概念		授業後、学びと感想を提出	
2	若月先生と国際保健の取り組み		授業後、学びと感想を提出	
3	海外へ向かう人への健康への取り組み		授業後、学びと感想を提出	
4	ネパールの地域医療から学ぶ、繋げる		授業後、学びと感想を提出	
5	佐久総合病院内でのこれまでの取り組み		授業後、学びと感想を提出	
6	海外での看護活動の実践について		海外で活躍した看護師の体験談を聞く 授業後、学びと感想を提出	
7				
8	まとめ		課題学習	
事前学習・事後学習内容			評価方法	
事前課題を学習してから授業に臨みましょう。			レポート	
講義後は、多様性を理解しグローバル社会に貢献できる基礎的能力を高めましょう。			事前課題	
			学びと感想	
使用するテキスト		参考文献		
災害看護学・国際看護学(医学書院)		なし		
受講生へのメッセージ				
多様な文化や価値観、現在の海外の医療・看護を知り、「個」を捉えた看護の実践を考えてみましょう。				

科目名	健康な身体作り	学年学期	単位数	時間数
		1 学年 前期	1	20
時間割表記名	健康な身体作り	講義担当教員 外部講師		
科目のねらい 心身の健やかな成長、自己の体調・健康管理について学ぶ。				
学習目標 1. 様々な視点から健康について学習し、自己の健康管理の方法を理解することができる				
ディプロマ・ポリシーとの関連性				
☒ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く ☐ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 ☐ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 ☐ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 ☐ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける				
授業の流れ				
回	学習内容	方法・必要なもの		
1	健康とは何か、運動の必要性/体力測定			
2	トレーニングの基礎知識（ストレッチ） 体力づくりに役立つトレーニング			
3	リラクゼーションとは リラクゼーションの実践（瞑想、ヨガ、マッサージ）			
4	農民体操、散歩（白田の散策）			
5	散歩（白田の散策）			
6	ポジティブメンタルヘルス			
7	レクリエーションとは（目的・効果・方法） レクリエーション体験			
8	心身の健康、リフレッシュのためのレクリエーション計画			
9	心身の健康、リフレッシュのためのレクリエーション発表・実施			
10	まとめ			
事前学習・事後学習内容 まとめを通して、この授業で修得できた知識・技術を確認しましょう。		評価方法 実技		
使用するテキスト なし		参考文献 健康な社会・生活（メディカ出版）		
受講生へのメッセージ 心身のリフレッシュをしながら、自分の健康管理の方法を楽しく学習していきましょう。 筆記用具とバインダーを持参し、身体を動かすのに適した服装で受講しましょう。				

科目名 感性を磨く！		学年学期	単位数	時間数
		1学年 通年	1	24
時間割表記名 感性を磨く！		講義担当教員 外部講師・専任教員		
		担当教員：渡辺		
科目のねらい さまざまな活動を通し、感性を磨き、変わる感情を自覚し自身を整え、多様な側面から看護が考えられる。				
学習目標 共通体験を通して、さまざまな人々の感性や視点に触れることで、新たな気づきを得ると共に視野を広げ学びを深めることができる				
ディプロマ・ポリシーとの関連性				
☒ 1. 感じ取る力 ☐ 2. 実践する力 ☐ 3. 実践する力 ☒4. 連携・協同する力 ☒5. 成長する力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける				
授業の流れ				
回	学習内容			方法・必要なもの
1	音楽 1 第一校歌・第二校歌・季節の歌 他			校歌練習
2	音楽 2 豊かな心を培うのは「芸術」 様々な音楽、芸術に触れる			
3	音楽 3			
4	白田地域の散策			演習
5				グループワーク・発表
6	野外活動 五感を使って感じよう！ 1) 笑いヨガ 1			講義・演習
7	2) 笑いヨガ 2			講義・演習
8	2) (1) 日帰りキャンプ			清里での自然体験
9	身体を目覚めさせる			
10	五感を目覚めさせる			
11	自分の心と身体の声に耳を澄まそう			
12	グループ発表			
事前学習・事後学習内容 共通体験を通して、新たな気づきを得ることができ、振り返りを通して看護を考えてみましょう			評価方法 レポート グループワーク	
使用するテキスト なし			参考文献 なし	
受講生へのメッセージ さまざまな活動を通し、豊かな心を培い自分の心と身体をリトリート（自分自身を整え直す）しましょう。 仲間と共に、新たな気づきを共有・協働し学びを深めましょう。				

科目名	農村医学 1	学年学期	単位数	時間数
		1学年 通年	1	30
時間割表記名	農村医学 1	講義担当教員	担当教員：鈴木 医師	
科目のねらい				
長野県厚生連が大切にしている地域で暮らす人々と生活と健康活動を学ぶ。また本校の創設者である若月先生の教えを知り、地域の人々のくらしといのちを守るために必要となる考えを学ぶ。				
学習目標				
1. 長野県厚生連が大切にしている地域で暮らす人々の生活と健康活動を理解することができる。				
2. 農村で暮らす地域の人々の環境や生活習慣、保健医療活動を理解することができる。				
ディプロマ・ポリシーとの関連性				
☒	1. 感じ取る力	価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く		
☐	2. 実践する力	専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度		
☒	3. 実践する力	地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践		
☒	4. 連携・協同する力	多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割		
☐	5. 成長する力	専門職業人としての自覚・自ら学び続ける		
授業の流れ				
回	学習内容		方法・必要なもの	
1	厚生連を知る①			
2	若月論 「若月先生の思想とつないでいくメッセージ」			
3				
4	農村医学を学ぶ①			
5	農村医学・農業協同組合について、佐久病院の歴史と地域医療			
6				
7	農村医学を学ぶ②			
8	農村医学の歴史と発展、農村で暮らす人々の背景と健康活動			
9	農村医学を学ぶ③ 病院祭参加		午前または午後参加	
10	農村医学を学ぶ④ 夏季大学参加		2日間のうち、1日参加	
11				
12				
13				
14	厚生連についてのグループワーク「厚生連を知る」		GW	
15	「厚生連を知る」の発表		発表	
事前学習・事後学習内容			評価方法	
講義を聞いて、若月先生や佐久病院の農村医学などについて、まとめに行きましょう。			最終レポート	
事前課題を学習してから授業に臨みましょう。			学習のポイントと感想の用紙	
			事前課題	
使用するテキスト		参考文献		
なし		・若月俊一著 村で病気とたたかう(1971)、母なる農村に生きて(2000)、信州の風の色(2010) 他多数		
		・松島松翠著 現代に生きる若月俊一のことは(2014)		
受講生へのメッセージ				
佐久総合病院の歴史と若月先生の教えを学習していきます。				
長野県厚生連の一員として、地域で暮らす人々の生活と健康活動に興味を持ち積極的に学んでいきましょう。				

科目名		学年学期	単位数	時間数
解剖生理学 1		1学年 前期	1	30
時間割表記名		講義担当教員		
解剖生理学 1		外部講師（対面授業・オンライン授業）		
科目のねらい		解剖生理学1は初めての解剖学の入り口として、高校までの学習内容とつながりやすい分野から学ぶことで、理解を深めることができる。 生活行動の「何のための生活行動か」「子供を産む」「動く」に必要な身体の構造や機能を学び、解剖生理学5のアクティブラーニングにつなげる。		
学習目標		・『生活行動からみるからだ』という考え方を知ることができる。 ・細胞について、人体の発生・構成・機能を理解することができる。 ・生殖器について、人体の発生・構成・機能を理解することができる。 ・筋骨格について、人体の発生・構成・機能を理解することができる。		
ディプロマ・ポリシーとの関連性				
☐	1. 感じ取る力	価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く		
☐	2. 実践する力	専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度		
☒	3. 実践する力	地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践		
☐	4. 連携・協同する力	多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割		
☒	5. 成長する力	専門職業人としての自覚・自ら学び続ける		
授業の流れ				
回	学習内容		方法・必要なもの	
1	人体の構造と機能を学ぶ 解剖生理学のための基礎知識 A構造からみた人体		講義	
2	B 人体のさまざまな器官		講義	
3	C素材からみた人体（組織） ①細胞の構造 ②細胞を構成する物質とエネルギーの生成		講義	
4	③細胞膜の構造と機能 ④細胞膜の増殖と染色体 ⑤分化した細胞 ⑥分化した細胞がつくる組織		講義	
5	体表面からみた人体の構造		講義	
6	男性生殖器 女性生殖器		講義	
7	受精と胎児の発生		講義	
8	A骨格とはどのようなものか B骨の連結		講義	
9	C骨格筋 D体幹の骨格と筋		講義	
10	E上肢の骨格と筋		講義	
11	F下肢の骨格と筋		講義	
12	G頭頸部の骨格と筋		講義	
13	H筋の収縮		講義	
14	I運動と代謝		講義	
15	まとめ		講義	
	試験			
事前学習・事後学習内容			評価方法	
事前にテキストを読んで受講してください。入学前テキストの生物の範囲は学習しておいてください。 講義後は、解剖生理学5につなげられるような自己学習を進めてください。			筆記試験 100点 授業態度	
使用するテキスト		参考文献		
解剖生理学（医学書院）		形態機能学		
受講生へのメッセージ				
疾患や看護技術の根拠を理解する上で必ず必要になる知識です。膨大な知識量ですが、この講義期間中にそれを修得できるような自己学習方法を確立してください。講義終了後も疾患や看護と結び付けるため何度も復習し、この講義で学んだ知識を活かせるように学習を深めてください。特に臓器の位置は「人体白地図」等を利用しながら、解剖生理5終了までに確実に覚えておきましょう。				

科目名		学年学期	単位数	時間数
解剖生理学 2		1学年 前期	1	30
時間割表記名		講義担当教員		
解剖生理学 2		外部講師（対面授業・オンライン授業）		
科目のねらい				
生活行動の「息をする」「恒常性維持のための物質の流通」に必要な身体の構造や機能を学び、解剖生理学5のアクティブラーニングにつなげる。				
学習目標				
・呼吸器について、人体の発生・構成・機能を理解することができる。 ・循環器について、人体の発生・構成・機能を理解することができる。 ・血液について、人体の発生・構成・機能を理解することができる。				
ディプロマ・ポリシーとの関連性				
☐	1. 感じ取る力	価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く		
☐	2. 実践する力	専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度		
☒	3. 実践する力	地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践		
☐	4. 連携・協同する力	多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割		
☒	5. 成長する力	専門職業人としての自覚・自ら学び続ける		
授業の流れ				
回	学習内容		方法・必要なもの	
1	呼吸器の構造		講義	
2	内呼吸と外呼吸	呼吸器と呼吸運動	講義	
3	呼吸器量		講義	
4	ガス交換とガスの運搬	肺の循環と血液	講義	
5	呼吸運動の調節	呼吸器の病態生理	講義	
6	循環器系とは		講義	
7	心臓の構造		講義	
8	心臓の拍出	刺激伝導系	講義	
9	血管の構造	リンパ管 胎児循環	講義	
10	末梢血液の構造（動脈）		講義	
11	末梢血液の構造（静脈）		講義	
12	血液の循環の調節		講義	
13	血液の組成	赤血球の構造と機能	講義	
14	白血球の構造と機能	血小板の構造と機能	講義	
15	ABO式血液型 RH式血液型 交差適応試験 主要組織適合抗原		講義	
	試験			
事前学習・事後学習内容			評価方法	
事前にテキストを読んで受講してください。入学前テキストの生物の範囲は学習しておいてください。 講義後は、解剖生理学5につなげられるような自己学習を進めてください。			筆記試験100点 授業態度	
使用するテキスト		参考文献		
解剖生理学（医学書院）		形態機能学、はたらく細胞		
受講生へのメッセージ				
疾患や看護技術の根拠を理解する上で必ず必要になる知識です。膨大な知識量ですが、この講義期間中にそれを修得できるような自己学習方法を確立してください。講義終了後も疾患や看護と結び付けるため何度も復習し、この講義で学んだ知識を活かせるように学習を深めてください。特に臓器の位置は「人体白地図」等を利用しながら、解剖生理5終了までに確実に覚えておきましょう。				

科目名		学年学期	単位数	時間数
解剖生理学 3		1学年 前期	1	30
時間割表記名		講義担当教員 外部講師（対面授業・オンライン授業）		
解剖生理学 3				
科目のねらい 生活行動の「食べる」「トイレに行く」に必要な身体の構造や機能を学び、解剖生理学5のアクティブラーニングにつなげる。				
学習目標 ・消化器系について、人体の発生・構成・機能を理解することができる。 ・腎泌尿器系について、人体の発生・構成・機能を理解することができる。				
ディプロマ・ポリシーとの関連性 ☐ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く ☐ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 ☒ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 ☐ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 ☒ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける				
授業の流れ				
回	学習内容			方法・必要なもの
1	消化器系の概要 咀嚼と嚥下			講義
2	食欲 胃の構造と機能			講義
3	小腸の構造と機能			講義
4	胆嚢・肝臓の構造と機能			講義
5	膵臓の構造と機能			講義
6	腹膜の構造と機能			講義
7	内部環境の恒常性（体液、体液の電解質、体液の酸塩基平衡）			講義
8	体液の調節（酸塩基平衡、水の出納、電解質の異常）			講義
9	体温（熱の出納） 体温の調節と異常（体温の分布と測定）			講義
10	体温の調節と異常（体温調節、発熱、高体温と低体温）			講義
11	腎・排泄路の構造と機能（尿の生成、抗利尿ホルモンの作用）			講義
12	腎・排泄路の構造と機能（尿の貯蔵と排尿のメカニズム）			講義
13	腎臓から分泌される生理活性物質（RAA系）			講義
14	腎臓から分泌される生理活性物質（エリスロポエチン）			講義
15	腎臓から分泌される生理活性物質（ビタミンDの活性化）			講義
	試験			
事前学習・事後学習内容 事前にテキストを読んで受講してください。入学前テキストの生物の範囲は学習しておいてください。 講義後は、解剖生理学5につなげられるような自己学習を進めてください。				評価方法 筆記試験100点 授業態度
使用するテキスト 解剖生理学（医学書院）		参考文献 形態機能学、はたらく細胞		
受講生へのメッセージ 疾患や看護技術の根拠を理解する上で必ず必要になる知識です。膨大な知識量ですが、この講義期間中にそれを修得できるような自己学習方法を確立してください。講義終了後も疾患や看護と結び付けるため何度も復習し、この講義で学んだ知識を活かせるように学習を深めてください。特に臓器の位置は「人体白地図」等を利用しながら、解剖生理5終了までに確実に覚えておきましょう。				

科目名		学年学期	単位数	時間数
解剖生理学 4		1学年 前期	1	30
時間割表記名		講義担当教員		
解剖生理学 4		外部講師（対面授業・オンライン授業）		
科目のねらい				
生活行動の「恒常性維持のための調節機構」「話す聞く」「眠る」「お風呂に入る」に必要な身体の構造や機能を学び、解剖生理学5のアクティブラーニングにつなげる。				
学習目標				
・ 脳神経系について、人体の発生・構成・機能を理解することができる。				
・ 感覚器について、人体の発生・構成・機能を理解することができる。				
・ 内分泌について、人体の発生・構成・機能を理解することができる。				
ディプロマ・ポリシーとの関連性				
☐	1. 感じ取る力	価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く		
☐	2. 実践する力	専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度		
☒	3. 実践する力	地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践		
☐	4. 連携・協同する力	多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割		
☒	5. 成長する力	専門職業人としての自覚・自ら学び続ける		
授業の流れ				
回	学習内容			方法・必要なもの
1	神経系の分類 伝導と伝達 活動電位発生 外胚葉由来			講義
2	髄膜・大脳皮質の区分け 交差支配 大脳皮質の対部位局在			講義
3	大脳基底核と障害 小脳・脳幹 間脳			講義
4	脊髄の構造と区分け・名称・反射			講義
5	脳脊髄液産生と排泄 脊髄神経			講義
6	脳神経			講義
7	脳波と睡眠 記憶 本能行動と情動行動			講義
8	中枢神経系の障害 下行伝導路 上行伝導路			講義
9	感覚機能と上行伝導路			講義
10	皮膚の構造と機能			講義
11	眼の構造と視覚 耳の構造と聴覚・平衡覚 味覚と嗅覚			講義
12	疼痛 痛みの分布 疼痛の発生機序			講義
13	内分泌器官の特徴			講義
14	内分泌系と外分泌系			講義
15	内分泌器官の種類と役割			講義
	試験			
事前学習・事後学習内容			評価方法	
事前にテキストを読んで受講してください。入学前テキストの生物の範囲は学習しておいてください。			筆記試験100点	
講義後は、解剖生理学5につなげられるような自己学習を進めてください。				
使用するテキスト		参考文献		
解剖生理学（医学書院）		形態機能学、はたらく細胞		
受講生へのメッセージ				
疾患や看護技術の根拠を理解する上で必ず必要になる知識です。膨大な知識量ですが、この講義期間中にそれを修得できるような自己学習方法を確立してください。講義終了後も疾患や看護と結び付けるため何度も復習し、この講義で学んだ知識を活かせるように学習を深めてください。特に臓器の位置は「人体白地図」等を利用しながら、解剖生理5終了までに確実に覚えておきましょう。				

科目名		学年学期	単位数	時間数
解剖生理学 5		1学年 後期	1	15
時間割表記名		講義担当教員		
解剖生理学 5		専任教員（渡辺・清水・伏見）		
科目のねらい	生活行動には効果器官をどのように利用するのか、解剖生理学1～4で学んだ内容より自分たちで導くことで、今後学習する疾患や看護技術と解剖生理学がつながっていることを知り、以後の学習や実習場面で解剖生理学の知識を活かせるものとすることができる。			
学習目標	解剖生理学から生活行動につなげるアクティブラーニングをグループで行い、発表することで、解剖生理学1～4の学びがより深く理解できる。			
ディプロマ・ポリシーとの関連性				
☒ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く ☐ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 ☒ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 ☐ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 ☒ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける				
授業の流れ				
回	学習内容		方法・必要なもの	
1	解剖生理学1～5までの受け方、講義のつながりについて、「人体白地図」記載『生活行動からみるからだ』：何のための生活行動か、恒常性維持のための物質の流通・調節機構、動く、食べる、息をする、トイレに行く、話す・聞く、眠る、お風呂に入る、子どもを生む		講義	
2、3、4	生活行動の10の項目（何のための生活行動か、恒常性維持のための物質の流通、恒常性維持のための調節機構、動く、食べる、息をする、トイレに行く、話す・聞く、眠る、お風呂に入る）について、4～5人の少人数グループで分担し発表資料を作成する。		グループワーク	
5、6	発表準備		グループワーク	
7、8	発表（ポスターセッション、1グループ10分程度）、まとめ		発表会形式	
事前学習・事後学習内容		評価方法		
事前学習 解剖生理学1～4の復習 今まで記載した「人体白地図」の復習		理解度・提出物・発表内容・参加状況（グループワークに参加する際の姿勢等、実習要綱を参照）を点数化し、100点満点で評価		
使用するテキスト		参考文献		
解剖生理学：医学書院		形態機能学、疾患・看護についての教科書 （グループワークについて）実習要綱、看護カンファレンス第3版：医学書院		
受講生へのメッセージ				
・講義回数が少ないので、事前学習内容は頭に入っているものとして進めます。特に解剖生理学1で学んだ生活行動についての概要はもう一度おさらいしておきましょう。				
・発表に間に合うように、時間外にもグループで活動しながら資料を作成してください。				
・グループワークでも個々が積極的に取り組んで、今までの知識を今後活かせるものに高めていきましょう。				

科目名 栄養生化学		学年学期	単位数	時間数
		1学年 前期	1	20
時間割表記名 栄養生化学		講義担当教員 薬剤師（外部講師）		
科目のねらい 生命活動を支える細胞や生体物質の構造、生理機能と食物を取り込んだ代謝を学ぶ。				
1 生命活動を支える細胞や物質の構造が理解できる 2 外部から取り込む食物（物質）が理解できる 3 外部から取り込む食物（物質）が分かる				
ディプロマ・ポリシーとの関連性 ☐ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く ☒ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 ☒ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 ☐ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 ☐ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける				
授業の流れ				
回	学習内容		方法・必要なもの	
1	細胞と生命の概念、細胞の構造と機能		講義	
2	栄養素各論①糖質・脂質・ビタミン		講義	
3	栄養素各論②タンパク質・DNA・RNA・ミネラル		講義	
4	酵素の性質・分類・臨床診断との関連		講義	
5	酵素、糖質の代謝 解糖系・クエン酸回路・グリコーゲンの合成と分解		講義	
6	糖質の代謝 ペーストリン酸回路・糖新生・血糖値の調整		講義	
7	脂質の代謝 脂質の消化・吸収、エネルギー産生、ケトン体、脂肪の合成		講義	
8	脂質の代謝、タンパク質とアミノ酸代謝		講義	
9	遺伝 遺伝子・染色体・DNAの複製・RNAの転写		講義	
10	遺伝 転写・翻訳・遺伝子疾患・遺伝子診断		講義	
	試験			
事前学習・事後学習内容 解剖生理の復習・食事のメニューに興味を持つ			評価方法 筆記試験100点	
使用するテキスト 生化学（医学書院）栄養学 医学書院		参考文献		
受講生へのメッセージ 自分の食生活を意識できる科目です。食べたものがどのようにして、エネルギーになるかを考え自分のからだに必要なものを摂取できるようになり、健康管理、患者さんの体の変化につなげましょう。				

科目名 栄養・食事療法		学年学期	単位数	時間数
		1学年 後期	1	20
時間割表記名 栄養・食事療法		講義担当教員 教員担当：白田		
		栄養士・NST専門療法士（看護師）		
科目のねらい 健康で豊かな生活をするために、食生活と健康とのかかわりを学ぶ				
学習目標 1 5大栄養素が理解できる 2 食生活と健康の関わりが理解できる 3 疾病と食との関係が理解できる				
ディプロマ・ポリシーとの関連性 ☐ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く ☒ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 ☒ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 ☐ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 ☐ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける				
授業の流れ				
回	学習内容			方法・必要なもの
1	栄養・食事療法① 看護と食事 NSTの役割 食べる栄養素から始まる栄養素 食事の機能と食べる行動			講義
2	栄養・食事療法① 何を食べたらよいか 1)炭水化物の摂取、脂質の摂取 2) タンパク質の摂取、ビタミンの摂取、ミネラルの摂取			講義
3	栄養・食事療法① バランスのとれた食事とは 6つの基礎食品、三食品群、四群点数法、食事のバランスガイド			講義
4	栄養・食事療法① 食生活と健康 食生活の現状、健康づくりのための食育、食生活指針、特別用途食品、特定保健用食品、栄養機能食品、食品の表示			講義
5	栄養・食事療法① ライフサイクルと栄養 1) 乳児期・幼児期・学童期・思春期の栄養・ダイエット 2) 壮年期・老年期の栄養（低栄養と脱水）・妊娠・授乳期の栄養			講義・演習
6	栄養・食事療法① 疾病と食 糖尿病・高血圧・脂質異常症と食・心疾患・肝臓病・腎臓病と食			講義
7	栄養・食事療法② 看護と食事 NSTの役割 看護の中で考える栄養			講義
8	栄養・食事療法② 事例から考える必要な栄養とは			演習
9	栄養・食事療法② 発表会			ポストテスト①
10				演習発表
事前学習・事後学習内容 栄養生化学との関連を意識しながら学習する。 実習に行ったときは患者さんの食事に興味をもとう		評価方法 ポストテスト40点(1～6回目の講義内容) 発表会参加評価：最高60点		
使用するテキスト 栄養学 医学書院		参考文献 食品成分表・ヘンダーソン問題リスト		
受講生へのメッセージ 自分の食生活を含め、体に良い食事・健康になる食事、患者さんの体を守る食事を考えて実習場で患者さんを捉えるポイントにつなげる。				

科目名		学年学期	単位数	時間数
	基礎薬理学	1学年 後期	1	15
	時間割表記名	講義担当教員		
	基礎薬理学	薬剤師(外部講師)		
科目のねらい				
薬物療法と看護を理解するために必要な基礎的な薬理学について学ぶ。				
学習目標				
1. 看護師としての役割、薬の取り扱い方法がわかる。				
2. 看護師としての薬に対しての必要な計算ができる。				
3. 薬物が人体に及ぼす影響がわかる。				
ディプロマ・ポリシーとの関連性				
■	1. 感じ取る力	価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く		
■	2. 実践する力	専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度		
□	3. 実践する力	地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践		
□	4. 連携・協同する力	多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割		
□	5. 成長する力	専門職業人としての自覚・自ら学び続ける		
授業の流れ				
回	学習内容		方法・必要なもの	
1	1 薬物療法における看護師の役割 2 薬剤師との違いと重なる部分		講義	
2	3 薬物治療の基本 1) 薬品の取り扱い 2) 薬の使い方 3) 濃度の計算 4 身近な薬物と中毒 1) 薬物・化学物質 2) 農薬 3) 有害ガス 4) 天然毒 5) 慢性中毒		講義	
3	5 薬物療法の目的 1) 原因療法 2) 対症療法 3) 補完療法 3) 予防使用		講義	
4	6 薬理作用と作用機序 1) 薬理作用 2) 薬物の作用点 3) 薬物受容体 3) アゴニスト・アンタゴニスト		講義	
5	7 薬品の体内動態と薬物相互作用 1) 薬物動態の基礎 ①与薬経路 ②血中濃度 ③初回通過効果 ④代謝と排泄(肝臓と尿中) 1) 副作用と有害作用 ①主作用と副作用 ②有害事象と有害反応 ③発生のメカニズム		講義	
6	8 医薬品の処方と調剤 1) 処方箋の記載内容 2) 診療の流れと調剤 2) 医薬品の適正使用と情報の活用 ①適正使用 ②確認する情報(添付文書・緊急安全性情報イエローレター 安全性速報ブルーレター)		講義	
7	9薬物治療の実際 1) 患者と薬物治療 2) 薬物治療の評価 3) 安全管理 3) 薬剤の単位・計算		講義	
8	まとめ		課題学習	
	試験			
事前学習・事後学習内容 栄養生化学を復習し、薬剤の吸収を考えて講義を聞く 自分が薬を飲むことを考える。			評価方法 試験 本試験 100点	
使用するテキスト 薬理学(医学書院)		参考文献		
受講生へのメッセージ 自分が薬を飲むことをイメージしながら、適切に健康管理ができる。正しく内服できることを考え聞くと臨床に出た時に患者さんのことを考えることに繋がるので、頑張りましょう。				

科目名	学年学期	単位数	時間数
	1学年 後期	1	30
時間割表記名	講義担当教員 外部講師（対面授業・オンライン授業）		
病態生理学			
科目のねらい			
疾病の原因や成り立ちを理解し、症状の出現するメカニズムの基礎を学ぶ。			
学習目標			
疾病の原因や成り立ちを理解し、症状の出現するメカニズムの基礎を学ぶ			
ディプロマ・ポリシーとの関連性			
☐	1. 感じ取る力	価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く	
☐	2. 実践する力	専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度	
☒	3. 実践する力	地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践	
☐	4. 連携・協同する力	多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割	
☒	5. 成長する力	専門職業人としての自覚・自ら学び続ける	
授業の流れ			
回	学習内容	方法・必要なもの	
1	1. 正常と病気の状態、変性・老化と死、変形・圧迫による障害	講義	
2	2. 炎症と感染、免疫による防御のしくみと異常	講義	
3	3. 腫瘍と先天異常と遺伝子	講義	
4	4. 循環障害	講義	
5	・うっ血　・充血　・浮腫　・脱水	講義	
6	5. 貧血の成因と病態、止血・凝固異常	講義	
7	6. 免疫による防御のしくみとその異常	講義	
8	7. 体液の調節のしくみとその異常	講義	
9	酸　・塩基平衡　・脱水	講義	
10	8. 皮膚体温調節のしくみとその異常	講義	
11	9. 内分泌・代謝のしくみとその異常	講義	
12	10. 呼吸器系の異常	講義	
13	11. 消化・吸収の異常	講義	
14	12. 脳・神経、筋の異常	講義	
15	13. まとめ	講義	
	試験		
事前学習・事後学習内容		評価方法	
各内容での解剖生理学を復習しておくこと		試験　100点	
使用するテキスト		参考文献	
病態生理学＜疾病の成り立ちと回復の促進②＞ （医学書院）		解剖生理学(医学書院)	
受講生へのメッセージ			
病気についての学習になります。解剖生理学の知識が必要となるので、解剖生理学の復習も併せて行っておきましょう。			

科目名		学年学期	単位数	時間数
保健チーム医療論		1学年 前期	1	15
時間割表記名		講義担当教員：白田 医師		
保健チーム医療論				
科目のねらい:				
医療の本質や歩みとその仕組みを知り、複数の医療専門職が連携し医療の果たす役割について学び、保健医療の課題と倫理的問題についての知識を習得する。				
学習目標				
①チーム医療の概念を学び、構成する各職種の役割を説明できる。				
②医療従事者間の連携や協働に必要なスキルを説明できる。				
③医療チームの実践における効果と課題を理解する。				
ディプロマ・ポリシーとの関連性				
■	1. 感じ取る力	価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く		
■	2. 実践する力	専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度		
■	3. 実践する力	地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践		
■	4. 連携・協同する力	多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割		
■	5. 成長する力	専門職業人としての自覚・自ら学び続ける		
授業の流れ				
回	学習内容		方法・必要なもの	
1	医学・医療の歩みと変遷		講義	
講義				
2	医療技術の進歩と現代医療の最前線		講義	
講義				
3	現代医療における諸問題		講義	
講義				
4	現代医療における諸問題		講義	
5	医療保健の仕組み、医療と倫理		講義	
6	チーム医療とマネジメント/ ポストテスト		講義	
7	まとめ		課題学習	
8				
事前学習・事後学習内容			評価方法	
授業内容のシラバスを確認			保健チーム医療論のレポート（100点）	
使用するテキスト			参考文献	
総合医療論（医学書院）			看護学概論 基礎看護学 医学書院	
受講生へのメッセージ				
看護学生も看護ケアチームの一員としての役割を果たします。卒業後は病院などの組織においてチームの一員として活躍が求められます。専門職としての役割・機能・責務を理解し、医療従事者間の連携や協働によりチーム医療の理念を実現する事について考えるようにして下さい。				

科目名		学年学期	単位数	時間数
公衆衛生学		1学年 後期	1	15
時間割表記名		講義担当教員 外部講師（オンライン）		
公衆衛生学				
科目のねらい：公衆衛生学の概念、方法の基礎、予防を倫理に基づき、環境要因が現代社会における個人・集団の健康に及ぼす影響について理解を知る。疾病の予防や健康増進へのアプローチの方法、医療に関する知識を習得し、健全な生活環境の構築と健康な社会生活を実践する知識を学ぶ。				
学習目標				
現代社会における生活者の健康状況を知り、健康づくりに果たす公衆衛生の役割について学ぶことができる。				
ディプロマ・ポリシーとの関連性				
■	1. 感じ取る力	価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く		
■	2. 実践する力	専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度		
■	3. 実践する力	地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践		
■	4. 連携・協同する力	多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割		
■	5. 成長する力	専門職業人としての自覚・自ら学び続ける		
授業の流れ				
回	学習内容		方法・必要なもの	
1	1. 公衆衛生を学ぶにあたって		講義	
	2. 公衆衛生のエッセンス			
	3. 公衆衛生の活動対象			
2	4. 公衆衛生のしくみ		講義	
	5. 集団の健康をとらえるための手法―疫学・保健統計			
3	6. 環境と健康		講義	
4	7. 感染症とその予防		講義	
	8. 国際保健			
5・6	9. 地域における公衆衛生の実践		講義	
7	10. 学校と健康		講義	
	11. 職場と健康			
8	12. 健康危機管理・災害保健			
	試験			
事前学習・事後学習内容			評価方法	
・事前にテキストを読んでおく			試験 100点	
・新聞やニュースで取り上げられている、公衆衛生学に関する問題を把握すること。				
使用するテキスト		参考文献		
系統看護学講座 専門基礎 公衆衛生 医学書院		『国民衛生動向』（厚生労働統計協会）		
		『国民の福祉と介護の動向』『保険と年金の動向』		
受講生へのメッセージ				
公衆衛生学は、学生時代には把握しにくい学問です。しかし、看護師として現場に立つと多様な面で公衆衛生学の重要性をあらためて実感する時がきますので、そのことを踏まえて学習に取り組んで下さい。				

科目名 看護学概論	学年学期	単位数	時間数
	1学年 前期	1	30
時間割表記名 看護学概論	講義担当教員 専任教員		
看護の主要な概念や理論、看護実践における知識、技術、看護実践の評価などの視点から、学問としての看護を考える。また、看護がもつ社会的機能・役割について理解し、保健医療福祉の専門職として、人々の健康・生活へどのようにアプローチしていくかを考える。			
学習目標 看護学の基盤となる主な概念を学び、看護の対象となる人とその生活を理解するとともに、看護活動を提供するための場と仕組みおよび看護専門職の役割・機能を学ぶ。			
ディプロマ・ポリシーとの関連性			
☒	1. 感じ取る力	価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く	
☐	2. 実践する力	専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度	
☐	3. 実践する力	地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践	
☒	4. 連携・協同する力	多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割	
☒	5. 成長する力	専門職業人としての自覚・自ら学び続ける	
授業の流れ			
回	学習内容	方法・必要なもの	
1	看護の本質／看護への招待・導入	講義	
2	看護の本質／看護の歴史	講義	
3	看護の定義／看護の対象の理解	講義	
4	健康と生活／ライフサイクルと健康	講義	
5	看護実践のための理論的根拠	講義・ポストテスト①	
6	看護理論家にみる看護の定義①	講義	
7	看護理論家にみる看護の定義②	講義	
8	看護の基本となる概念／看護における倫理	講義	
9	看護における倫理／看護者の倫理綱領	講義・グループワーク	
10	医療・看護における倫理原則	講義・ポストテスト②	
11	看護に関わる法律・制度	講義	
12	看護職の養成制度／看護職者の継続教育とキャリア開発	講義・ポストテスト③	
13	看護の提供のしくみ	講義	
14	医療安全と医療の質保証	講義	
15	広がる看護の活動領域	講義・ポストテスト④	
	試験		
事前学習・事後学習内容		評価方法 ポストテスト20点（5点×4回） 筆記試験 70点 課題提出状況 10点	
各回の講義に関係する内容について、テキストを読んで出席しましょう。			
使用するテキスト 看護学概論（医学書院） 看護覚え書（現代社） 看護の基本となるもの（日本看護協会出版会）		参考文献 看護理論家の著書	
受講生へのメッセージ 看護学の初学者として、看護とは何かについて探求し続けるための基本的な考え方を身につける科目です。主体的に授業に臨み“考える”ことを大切にしたいと思っています。自分で考え、文字に表し、人に伝え、他者の考えを聴く機会を多く持ち、看護についての考えを広げ深めていってほしいと願っています。			

科目名 共通基本技術 安全・コミュニケーション・環境	学年学期	単位数	時間数
	1学年前期	2	50
時間割表記名 安全・コミュニケーション・環境	講義担当教員 専任教員(臼田・渡辺)		
科目のねらい 対象の生活の場としての医療・療養環境に合わせた看護技術を提供するため、安全・コミュニケーション・環境の基本技術を学ぶ。			
学習目標 1 看護技術の概念を理解する。 2 看護活動に必要な情報収集・観察方法を理解する。 3 看護活動をおこなうための、人間関係を成立させるコミュニケーション技術を理解する。 4 スタンダードプリコーションの基本・清潔操作を実施できる。 5 環境の調整、ベッドメイク、リネン交換を実施できる。			
ディプロマ・ポリシーとの関連性 ■ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く ■ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 ■ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 □ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 ■ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける			
授業の流れ			
回	学習内容	方法・必要なもの	
1	共通① 看護技術とは	講義	
2	共通① クリティカルシンキング、根拠に基づいた看護技術	講義	
3・4	共通① 対象理解のための観察と情報収集	講義	
5	共通① 記録・報告	講義 ①ポストテスト	
6～9	共通① コミュニケーションの実際 ロールプレイング含む	講義・演習	
10	共通② 安全を守る技術① 安全確保の知識	講義・演習	
11	共通② 安全を守る技術② 事故防止	講義・演習	
12	共通② 感染予防 ①スタンダードプリコーションの基本概念	講義 ②ポストテスト	
13	共通② 感染予防 ②手洗い	演習	
14	共通② 感染予防 ③ガウンテクニック(エプロン)	演習	
15	共通② 感染予防 ④滅菌物の取り扱い	演習	
16	共通③ 生活環境を整える意義・視点	講義	
17	共通③ 病床の構造と法的基礎	講義	
18	共通③ プライバシーの保護	講義	
19	共通③ 環境整備の目的・方法	講義	

20	共通③ 環境演習1)環境調整	演習
21	共通③ 病床の作成方法	③ポストテスト 講義
22	共通③ 環境演習2) ベッドメイキング	講義・演習
23	共通③ 環境演習3) ベッドメイキング (ボックスシーツ)	演習
24	共通③ 環境演習4) 臥床患者のリネン交換	講義・演習
25	共通③ 環境演習5) 臥床患者のリネン交換 (点滴のある患者)	演習
	試験	
事前学習・事後学習内容 講義前に授業範囲の内容のテキストを読み講義に臨んでください。 基礎・臨床看護技術のテキストの授業範囲の動画を視聴してきてください。		評価方法 ポストテスト 30点 (10点×3回) 終講試験 70点 1～15＝40点 16～25＝30点
使用するテキスト 基礎看護技術 医療安全 (医学書院) 基礎・臨床看護技術 (医学書院)		参考文献 解剖生理学 (医学書院)
受講生へのメッセージ 技術を学びます。まず、白衣をきちんと着こなし身支度を整えて参加しましょう。いつでも患者の前に立てるように、自分で時間を作り練習しましょう。「継続は力なり」 この科目の学習内容が基礎看護学実習の内容に含まれます。		

科目名		学年学期	単位数	時間数
生活支援技術 1 活動と休息・清潔と衣生活		1学年 通年	1	30
時間割表記名		講義担当教員		
活動と休息・清潔と衣生活		専任教員		
科目のねらい				
対象の生活を整えるための技術として、身体の清潔と衣生活・姿勢・体位・移動・睡眠・休息の安全・安楽を踏まえた根拠ある看護実践を行うための看護技術を習得する。				
学習目標				
1. 睡眠のメカニズムを学び、睡眠を促す援助技術を習得することができる。				
2. ボディメカニクスを活用した姿勢の体位保持や移動に関する技術を習得することができる。				
3. 人の皮膚や生活に清潔が及ぼす影響を理解し、対象に応じて援助ができる。				
4. 対象の安全・安楽に留意しながら基本的な活動と生活での援助ができる。				
ディプロマ・ポリシーとの関連性				
■	1. 感じ取る力	価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く		
■	2. 実践する力	専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度		
■	3. 実践する力	地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践		
■	4. 連携・協同する力	多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割		
■	5. 成長する力	専門職業人としての自覚・自ら学び続ける		
授業の流れ				
回	学習内容			方法・必要なもの
1	生活① 休息と睡眠の意義			講義
2	生活① 活動と運動の意義① 廃用症候群			講義・ポストテスト①
3	生活① 活動と運動の意義② ボディメカニクス			講義
4	生活① 活動と運動の意義③ 体位、体位変換 移動・移送			講義・ポストテスト②
5	生活① 体位変換 良肢位 水平移動 側臥位 長座位 端座位			演習
6	生活① 車いす移乗（全介助・一部介助）			演習
7	生活① ファーラー位 ストレッチャー移送、歩行介助(動画視聴)			演習
8	生活② 清潔／衣生活の意義			講義
9	生活② ヘンダーソンの充足・未充足／清潔ケアの手順（整容・手浴・足浴）			講義
10	生活② 清潔ケアの実際（整容・手浴・足浴）			演習
11	生活② 洗髪ケア			講義
12	生活② 洗髪の実際			演習
13	生活② 全身清拭・陰部洗浄・更衣			講義
14	生活② 全身清拭・陰部洗浄・更衣の実際			演習
15	生活② 清潔ケア総まとめ			演習・ポストテスト③・④
	試験			
事前学習・事後学習内容			評価方法	
講義前に授業範囲の内容のテキストを読み講義に臨んでください。			ポストテスト20点（1回5点×4回）	
基礎・臨床看護技術のテキストの授業範囲の動画を視聴してください。			筆記試験 80点	
使用するテキスト			参考文献	
基礎看護技術Ⅰ(医学書院)			解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院	
根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術（医学書院）			物理学 医学書院	
受講生へのメッセージ				
本科目は、解剖生理学や物理学の知識が必要です。しっかりと復習しておきましょう。課題提示された場合はその課題を確実に実施して講義に臨みましょう。またこの科目を踏まえた内容が、基礎看護学実習の内容になります。				

科目名	生活支援技術 2 食事と排泄	学年学期	単位数	時間数
		1学年 通年	1	30
		講義担当教員 専任教員		
時間割表記名	食事と排泄			
科目のねらい 対象の生活を整えるための技術として、食事・排泄の安全安楽を踏まえた根拠ある看護実践を行うための看護技術を習得する。				
学習目標 1. 食事・排泄の科学的根拠に基づいた安全安楽な看護実践の方法を理解する 2. 食事・排泄の科学的根拠に基づいた安全安楽な看護実践を行うための技術を修得する				
ディプロマ・ポリシーとの関連性 ☐ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く ☐ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 ☒ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 ☐ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 ☐ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける				
授業の流れ				
回	学習内容	方法・必要なもの		
1	生活① 食事の意義・食事のメカニズム・栄養のアセスメント	講義		
2	生活① 食事介助・摂食嚥下	講義		
3	生活① 食事介助	演習		
4	生活① 口腔ケア	講義・演習		
5	生活① 健康障害のある対象の食事（非経口栄養法・経腸栄養法・胃管挿入）	講義		
6	生活① 経管栄養法	演習		
7	生活① 健康障害のある対象の食事（非経口栄養法・経腸栄養法・胃管挿入）まとめ	講義・ポストテスト①		
8	生活② 排泄の意義・排泄のメカニズムとアセスメント	講義		
9	生活② 自然排泄の介助①②（ポータブルトイレ・床上排泄・尿器・便器）	講義		
10	生活② 自然排泄の介助①②（ポータブルトイレ・床上排泄・尿器・便器）	演習		
11	生活② 自然排泄の介助③	講義		
12	生活② 排泄障害と援助（導尿・膀胱留置カテーテル・失禁）、おむつ体験	講義・演習		
13	生活② 排泄障害と援助（排便・浣腸）	講義・ポストテスト②		
14	生活② 導尿	演習		
15	生活② グリセリン浣腸（陰部洗浄、おむつ交換）	演習		
	試験			
事前学習・事後学習内容 講義前に授業範囲の内容のテキストを読み講義に臨んでください。 基礎・臨床看護技術のテキストの授業範囲の動画を視聴してきてください。		評価方法 筆記試験 80点 ポストテスト20点（10点×2回）		
使用するテキスト 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 基礎・臨床看護技術（医学書院）		参考文献 解剖生理学（医学書院）		
受講生へのメッセージ 本科目は、“食”“排泄”というすべての人に欠かせない生活行動への援助方法を学習します。 この科目の学習内容が看護過程実習の内容に含まれます。				

科目名 看護過程展開論Ⅰ	学年学期	単位数	時間数
	1学年 通年	1	30
	講義担当教員 専任教員		
時間割表記名 看護過程展開論Ⅰ			
科目のねらい			
看護を科学的かつ論理的に展開するための思考プロセスを学ぶ。			
学習目標			
1. 看護過程の概念と構成要素を理解することができる 2. アセスメントの展開方法について理解する 3. 診断過程について理解する 4. 看護診断の記述方法について理解する 5. 計画立案の構成要素と立案時の留意点について理解する 6. 実施・評価について理解する			
・ポリシーとの関連性			
■	1. 感じ取る力	価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く	
■	2. 実践する力	専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度	
■	3. 実践する力	地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践	
■	4. 連携・協同する力	多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割	
■	5. 成長する力	専門職業人としての自覚・自ら学び続ける	
授業の流れ			
回	学習内容	方法・必要なもの	
1	看護過程とは	講義	
2	看護過程に使う理論	講義	
3	アセスメント①	講義	
4	アセスメント②	講義	
5	看護診断・計画立案	講義	
6	実施・評価	講義	
7	看護要約・関連図	講義	
8	紙上事例演習オリエンテーション	講義	
9	情報分類整理 1, 2, 3	演習 グループワーク	
10	関連図 充足・未充足の判断	演習 グループワーク	
11	看護問題立案①	演習 グループワーク	
12	看護問題立案②、期待される結果	演習 グループワーク	
13	看護計画立案	演習 グループワーク	
14	実施・反応・評価	演習 グループワーク	
15	長期目標 優先順位決定	演習 グループワーク	
	試験		
事前学習・事後学習内容		評価方法	
各回の講義に関係する内容について、テキストを読んで出席しましょう。		筆記試験60点 演習課題取り組み（40点）	
使用するテキスト		参考文献	
基礎看護技術Ⅱ（医学書院）看護過程に沿ったヘンダーソン看護論の実践（ヌーベルヒロカワ）ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト（ヌーベルヒロカワ） 対症看護(学研)		ヘンダーソン看護論	
受講生へのメッセージ			
この科目は段階的に進めていきますので、1回でも欠席すると理解が難しくなっていきます。 またグループワークを行いますので欠席は他学生にも支障をきたしかねませんので注意してください。			

科目名 診療に伴う援助技術 1 与薬・検査		学年学期	単位数	時間数
		1学年後期	1	30
時間割表記名 与薬・検査		講義担当教員 専任教員		
科目のねらい 安全で確実な与薬・検査の基礎的技術を学ぶ。				
学習目標 薬物の代謝のメカニズムを理解し、正確で安全な与薬の基本技術を学ぶ。 検査の安全・安楽を踏まえた看護実践を行う為の看護技術を学ぶ。				
ディプロマ・ポリシーとの関連性 ☒ 1. 感じ取る力 ☒ 2. 実践する力 ☐ 3. 実践する力 ☒ 4. 連携・協同する力 ☐ 5. 成長する力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける				
授業の流れ				
回	学習内容			方法・必要なもの
1	検査 診療における検査の位置づけ、診療プロセス・検体検査を学習する。 検査の目的と意義。			講義
2	検査 時の患者心理と看護者の役割 検体検査の技術（尿・便・痰）			講義
3	与薬 与薬に携わる看護師に必要な知識 与薬時の患者心理			講義
4	与薬 与薬方法の実際・経口薬（バツカル錠・内服薬・舌下錠・経皮・外用薬）の投与			講義
5	与薬 内服薬、外用薬の与薬に関する知識			講義・ポストテスト①
6	与薬 直腸内与薬方法 演習に向けてオリエンテーション			講義
7	与薬 直腸内与薬方法・実際 尿検査の実際			講義・演習
8	与薬 注射の基礎知識・注射器具、注射薬の取り扱いの実際			講義
9	与薬 注射の基礎知識（皮内・皮下・筋肉内）注射時の患者心理と看護師の役割			講義
10	与薬 注射器具の取り扱い・実際 皮下注射			演習
11	与薬 静脈内採血の基礎・演習に向けてオリエンテーション			講義・ポストテスト②
12	検査 静脈内採血の演習			演習
13	与薬 輸血・中心静脈カテーテルの管理			講義
14	与薬 筋肉内注射 点眼の実際			演習
15	与薬 与薬のまとめ演習(筋肉注射 点滴中の患者の心理)			演習
	試験			
事前学習・事後学習内容 講義前に授業範囲の内容のテキストを読み講義に臨んでください。 基礎・臨床看護技術のテキストの授業範囲の動画を視聴してきてください。			評価方法 筆記試験 70点 ポストテスト 20点（10点×2回） 取り組み・態度(10点)	
使用するテキスト 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術（医学書院）		参考文献		
受講生へのメッセージ 安全を確保する事を意識し、動画視聴などの事前学習課題を必ず行い講義に臨んでください。 看護技術を理解するとともに、援助を提供する対象とその心理的側面についても考えてください。				

科目名 診療に伴う援助技術2 呼吸・循環を整える技術		学年学期	単位数	時間数
		1 学年後期	1	30
時間割表記名 呼吸・循環を整える技術		講義担当教員		
		専任教員 他事業所		
科目のねらい 呼吸器・循環器・意識の生理機能を理解し、科学的根拠にもとづいた呼吸・循環を整える技術を学ぶ。				
学習目標 1. 呼吸器・循環器・意識の生理機能を理解し、科学的根拠にもとづいた呼吸・循環を整える技術を習得する。 2. 救急場面での看護師の役割を理解し救急救命処置の技術を習得する。				
・ポリシーとの関連性 ■ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く ■ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 ■ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 ■ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 ■ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける				
授業の流れ				
回	学習内容			方法・必要なもの
1	呼吸 I 呼吸困難とは、観察とアセスメント			講義
2	呼吸 1. 酸素吸入療法について			講義
3	呼吸 酸素供給システム・酸素の投与方法・吸入療法			演習 ポストテスト①
4	呼吸 2. 口腔・鼻腔・気管吸引・持続吸引について			講義
5	呼吸 口腔・鼻腔・気管吸引・持続吸引			演習
6	呼吸 3. 排痰ケアについて(体位ドレナージ・スクイーミング)			講義
7	呼吸 体位ドレナージ			演習 ポストテスト②
8	循環 4. 電法・体温調整			講義
9	循環 電法・体温調整			演習
10	循環 5. 創傷処置・包帯法・三角布			講義
11	循環 創傷処置・包帯法・三角布			演習 ポストテスト③
12	救命救急 II 救命救急処置技術 心肺蘇生法とは 一次救命処置 (BLS) とは			講義
13	救命救急 1. 一次救命処置 ①意識レベル、気道確保、胸骨圧迫、心臓マッ			演習
14	救命救急 一次救命処置 ②AED			演習
15	救命救急 2. 急変時の対応 急変時の対応の実際			講義 ポストテスト④
	試験			
事前学習・事後学習内容 講義前に授業範囲の内容のテキストを読み講義に臨んでください。 基礎・臨床看護技術のテキストの授業範囲の動画を視聴してきてください。				評価方法 ポストテスト 20点 (5点×4回)。 筆記試験 80点
使用するテキスト 基礎看護技術II 医学書院 基礎・臨床看護技術 医学書院			参考文献	
受講生へのメッセージ この科目では、基礎看護技術の中でも特に生命維持に関わる技術を学びます。				

科目名 フィジカルアセスメント	学年学期	単位数	時間数
	1学年 通年	1	30
時間割表記名 フィジカルアセスメント	講義担当教員 担当教員：坂本 外部講師・専任教員		
科目のねらい 看護における観察の重要性を理解し、対象の健康状態を把握し、アセスメントするための技術を学ぶ。			
学習目標 1. フィジカルアセスメントを行う意義と重要性について説明できる。 2. 対象の状態を正確・安全に把握できる技術を実施できる。 3. 得られた情報を正確に表現でき、客観的データを基に対象に起こっていること・起こりうることをアセスメントし、必要な援助を考えることができる。			
ディプロマ・ポリシーとの関連性 ■ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く ■ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 ■ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 □ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 ■ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける			
授業の流れ			
回	学習内容	方法・必要なもの	担当
1	フィジカルアセスメントの意義・実施するための基本原則と準備 フィジカルアセスメントの観察技術 「観る・診る」こと「聞く・聴く」こと	講義・演習	外部講師
2	フィジカルアセスメントの基本技術「問診・視診・聴診・打診・触診」	講義・演習	外部講師
3	「息をする」機能のフィジカルアセスメントの知識と技術① 呼吸	講義・演習	外部講師
4	「息をする」機能のフィジカルアセスメントの知識と技術② 呼吸	講義・演習	外部講師
5	「恒常性維持」機能のフィジカルアセスメントの知識と技術① 体温・脈拍・血圧	ポストテスト①・講義・演習	専任教員
6	「恒常性維持」機能のフィジカルアセスメントの知識と技術② 体温・脈拍・血圧	講義・演習	専任教員
7	「食べる」機能のフィジカルアセスメントの知識と技術① 消化器	講義・演習	外部講師
8	「食べる」機能のフィジカルアセスメントの知識と技術② 消化器	講義・演習	外部講師
9	「動く」機能のフィジカルアセスメント 骨格・筋	講義・演習	外部講師
10	「見る・聞く・嗅ぐ・味わう・触れる・話す」機能のフィジカルアセスメントの知識と技術	講義・演習	外部講師
11	「トイレに行く」機能のフィジカルアセスメントの知識と技術 腎・泌尿器系	ポストテスト②・講義・演習	専任教員
12	「恒常性維持」機能のフィジカルアセスメントの知識と技術③ 体温・脈拍・血圧	講義・演習	専任教員
13	「恒常性維持」機能のフィジカルアセスメントの知識と技術④ 体温・脈拍・血圧	講義・演習	専任教員
14	「アセスメントと技術」の実施	グループ演習	専任教員
15	「アセスメントと技術」リフレクション・まとめ	グループワーク・発表会	専任教員
16	筆記試験		
事前学習・事後学習内容 ・解剖生理学の復習		評価方法 ポストテスト 20点（10点×2回） 「アセスメントと技術」の実施 10点 筆記試験 70点	
使用するテキスト ・看護が見える フィジカルアセスメント（メディックメディア） ・基礎看護技術（医学書院）		参考文献 ・解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院	
受講生へのメッセージ 対象の身体状況を理解することは、看護を実践するために必要な第一歩です。日々コミュニケーション力や観察力が必要となります。対象の把握のために正確に安全に実施できるよう、確実に身につけましょう。 第14回では、事例を用いて今まで学んだ知識・技術を実施します。			

科目名 気づきのトレーニングⅠ		学年学期	単位数	時間数
		1学年 通年	1	15
時間割表記名 気づきのトレーニングⅠ		講義担当教員 専任教員		
科目のねらい				
対象の変化に対する「気づき」を基に、看護を実践できる力を学ぶ。				
学習目標				
1. あらゆる状況を感じ、表現することができる。				
2. 「気づき」から看護を考え実践できる。				
3. 他者の気づきを共有し、看護の視点を考えることができる。				
ディプロマ・ポリシーとの関連性				
■	1. 感じ取る力	価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く		
■	2. 実践する力	専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度		
■	3. 実践する力	地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践		
■	4. 連携・協同する力	多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割		
■	5. 成長する力	専門職業人としての自覚・自ら学び続ける		
授業の流れ				
回	学習内容		方法・必要なもの	
1	発見を楽しむ		講義・演習	
2	「気づき」を発見する（間違い探し）		講義・演習	
3	「気づき」から対象の状態を把握する（気づくラウンド）		講義・演習	
4	「気づき」からの実習の振り返り		講義・発表	
5	「気づき」からの看護実践		演習	
6	技術の確認 1 気づき		技術の確認	
7	技術の確認 1 リフレクション（映像からの振り返り）		演習	
8	技術の確認 1 グループまとめ発表		演習・発表	
	試験			
事前学習・事後学習内容			評価方法	
・解剖生理学			・確認演習 30点	
・基礎看護学			・課題提出（個人30点・グループ40点）	
			（振り返り用紙・グループまとめ含む）	
使用するテキスト			参考文献	
・特になし			・解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院	
こちらで資料は準備します。				
受講生へのメッセージ				
互いに認め、共に歩み必要性に気づけるように！対象の変化に敏感になっていきましょう。そのためにも、普段の生活から感覚・感性を磨いていきましょう。実習に向けて看護の視点を培って行動していきましょう。				

科目名	成人看護学概論	学年学期	単位数	時間数
		1学年 後期	1	30
時間割表記名	成人看護学概論	講義担当教員 専任教員		
科目のねらい				
成人期にあるの対象の特徴と成人期の生活の中で特徴的な健康問題について理解し、健康の保持増進、疾病予防の看護について理解する。 青年期にあたる学生が成人・大人を 理解することで自分自身を知る機会となる。 成人看護学実習で活用する理論・モデルも学び、成人期にある人の健康教育のアプローチの方法について理解する。				
学習目標 1 成人期の発達段階と各段階の特徴が理解できる。 2 成人期と健康障害の理解ができる 3 成人期の健康障害の看護の概略が理解できる				
ディプロマ・ポリシーとの関連性				
■ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く ■ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 ■ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 ■ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 ■ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける				
授業の流れ				
回	学習内容		方法・必要なもの	
1	1 成人であるということ 1) 成人・成年・大人とは 2) 身体的・心理的・社会的な特徴、発達段階、発達課題		講義	
講義				
講義				
4	2 成人の生活と動向 1) 家族形態と機能、社会状況の変化 2) 生活状況の特徴 3) 健康状況の特徴(生と死、受療状況)		講義	
5			講義	
6	3 生活習慣に関連する健康課題と職業に関連する健康課題 (健康をおびやかす要因) 1) 生活習慣病の発症要因と発生状況・就労条件・環境と病気 (1) 就労条件・環境と病気 (2) 生活ストレスとストレス対処方法、職業性疾病的発生状況と対策 (3) 保健に関わる対策(健やかな生活をはぐくむために) 4 ヘルスプロモーション		講義	
7			講義	
8			講義	
9	5 成人へのアプローチの基本 1) 大人の健康行動のとりえ方 2) 症状マネジメント		講義 ポストテスト	
10	6 健康状態に応じた看護 1) 健康レベルとは		講義	
11	2) 健康が急激に変化し急性の状態にある人への看護 急性期にある人の特徴、急性期にある人の看護、		講義	

12	3) 慢性の経過をたどる健康障害の人への看護 (1) 慢性疾患を有する人の特徴 ①病みの軌跡 (2) 慢性病とともに生きる人を支える ①セルフケアとセルフマネジメント ②生活の再構築への支援	講義
13	4) 生活機能障害のある人の看護 障害とは、リハビリテーション、 生活を支援する看護、	講義
14	5) 人生の最終段階にある人への看護	講義
15	7 継続的な移行支援	講義 ポストテスト
	試験	
事前学習・事後学習内容 ・事前学習をしてから臨みましょう ・関連内容の既習の講義の復習をしておきましょう		評価方法 ポストテスト 10点 (5点×2回) 終講試験 90点
使用するテキスト 成人看護学総論 医学書院		参考文献 国民衛生の動向
受講生へのメッセージ 成人看護概論では、成人の特徴と健康障害との関連や特徴、また関連する制度を学びます。 今後学ぶ、疾患や看護を学ぶ基盤となります。 予習復習し、理解していきましょう。		

科目名	老年看護学概論		学年学期	単位数	時間数
			1学年 後期	1	30
	時間割表記名	老年看護学概論	講義担当教員 伏見 礼子		
科目のねらい					
加齢による変化・老化現象を知り、高齢者の特徴や老年看護の意味を見出す。また、長野県・佐久市の高齢化医療の現状に関心を持てる。					
学習目標					
1 老化現象・加齢による変化を理解する。					
2 高齢者の特徴を身体的・精神的・社会的特徴を説明できる。					
3 様々な健康段階に応じ生活する場の変化を理解できる。					
ディプロマ・ポリシーとの関連性					
■ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く ■ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 □ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 ■ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 □ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける					
授業の流れ					
回	学習内容			方法・必要なもの	
1	1. 高齢者の理解 1) 加齢による身体的変化①			講義・加齢変化の冊子	
2	加齢による身体的変化②			講義・加齢変化の冊子	
3	加齢による身体的変化③			講義・加齢変化の冊子	
4	1) 加齢による心理的・社会的変化			講義・加齢変化の冊子	
5	1. 老年期のは発達課題 ライフサイクルの考え方 家族の発達課題			講義・加齢変化の冊子	
6	2. 社会的視点から見た高齢者 役割機能 社会参加 経済的基盤 老人体験を考える			講義・加齢変化の冊子 演習（体験プランの作成）	
7	加齢による身体的変化（老人体験）			演習	
8	4. 心理学的視点から見た高齢者 ・記憶の変化 知能の変化 生きがい			講義・加齢変化の冊子	
9	5. 高齢者を取り巻く社会① 1) 高齢者を支える制度 2) 佐久地域の社会資源を考える① 調査			講義・演習	
10	6. 高齢者の生活の場と看護の特徴 1) 健康状態に・ケアに応じた生活の場 2) 生活の場に応じた高齢者とその家族への看護			講義	
11 12	3) 特別養護老人ホームの訪問			演習 見学レポート提出	
13	7. 老年看護における倫理的課題 1) 高齢者の自己決定 2) 高齢者虐待 3) 権利擁護 4) ノーマライゼーション			講義	
14	高齢者を取り巻く社会② 3) 佐久地域の社会資源を考える② 発表			演習	
15	8 高齢者看護における基本的な考え方 1) 高齢者の健康の概念 2) QOL			講義	
	試験				
事前学習・事後学習内容			評価方法		
解剖生理を復習し、加齢変化の冊子を活用して自己学習を進めながら高齢者の変化を理解していきましょう			加齢変化の冊子 10点 施設見学レポート 10点 終講試験 80点		
使用するテキスト			参考文献		
老年看護学（医学書院）			国民衛生の動向		
受講生へのメッセージ					
病院実習や地域に出ても、対象となる事多い高齢者のことを学び、今後の看護に役立てることが学べます。身近にいる祖父母から、病院・施設にいる対象の生活をイメージしてみてください。					

科目名 老年看護学援助論 1		学年学期	単位数	時間数
		1学年 後期	1	30
時間割表記名 老年看護学援助論 1		講義担当教員 認定看護師、専任教員：佐藤みどり		
科目のねらい 高齢者の老化現象・加齢による変化からくる生活機能のアセスメントし、高齢者とその家族の自立した生活の支援のため看護実践を学ぶ。				
学習目標 1 高齢者の生活機能のアセスメントについて説明できる。 2 高齢者を支える生活技術が実践できる。 3 高齢者を支える認定看護師存在を理解し、知識・技術が実践できる。				
ディプロマ・ポリシーとの関連性 ■ 1. 感じ取る力 ■ 2. 実践する力 ■ 3. 実践する力 □ 4. 連携・協同する力 □ 5. 成長する力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける				
授業の流れ				
回	学習内容			方法・必要なもの
1	1 高齢者のアセスメント 加齢変化確認テスト			講義（専任教員）
2	2 高齢者の暮らしを支える援助 1) コミュニケーション 2) 基本動作と転倒転落			講義（専任教員）
3	3) 環境整備 4) 清潔・整容 5) 休息・睡眠			講義（専任教員）
4	6) 排泄の特徴			講義 （皮膚排泄ケア認定看護師）
5	尿失禁・皮膚トラブル			
6	褥瘡			
7	褥瘡予防：ベッドマットを考える			演習（K&Kメディカル）
8	7) 食事 嚥下障害			講義（摂食・嚥下障害認定看護師）
9	摂食・嚥下に対する食事援助			演習 （摂食・嚥下障害認定看護師）
10	口腔ケア・入れ歯の扱い方			
11	嚥下体操・嚥下のケア 胃瘻の管理			
12	3 高齢者特有の症状と看護 1) ねたきり・廃用症候群			講義（専任教員）
13	2) 脱水の看護 3) 熱中症の看護			講義（専任教員）
14	4) めまいの看護 5) かゆみの看護 6) 痛みの看護			講義（専任教員）
15	持続的導尿・摘便・おむつ交換			演習（専任教員）
	試験			
事前学習・事後学習内容 加齢変化の冊子を活用し、老年看護学概論で学習した内容を復習してから授業に参加しましょう。		評価方法 終講試験 100点 1～3・7・12～15＝40点 4～6＝30点 8～11＝30点		
使用するテキスト 老年看護学（医学書院）		参考文献 加齢変化の冊子（老年看護学概論で作成した）		
受講生へのメッセージ 高齢者の老化現象・加齢による変化からくる生活機能のアセスメントし、高齢者とその家族の自立した生活の支援のため看護実践するので、盛沢山の講義です。自分で時間を見つけ演習しましょう。				

科目名 小児看護学概論		学年学期	単位数	時間数
		1学年後期	1	30
時間割表記名 小児看護学概論		講義担当教員 専任教員		
科目のねらい				
子どもの成長・発達と養育環境、および子どもと家族の発達や健康をサポートするための基礎知識を学ぶ。				
学習目標				
1. 子どもと子どもを取り巻く環境、子どもの発達をサポートするための法律や保健対策がわかる。				
2. 子どもの特徴と各期の成長発達について理解できる。				
ディプロマ・ポリシーとの関連性				
■ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く ■ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 □ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 □ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 ■ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける				
授業の流れ				
回	学習内容		方法・必要なもの	
1	小児看護の特徴と理念			
2	子どもの権利と医療の中での倫理		講義・GW	
3			講義・GW	
4	子どもに関わる法律・施策		講義・GW	
5			講義・GW ポストテスト	
6	子どもの成長発達①成長発達の基礎知識		講義・GW	
7			講義・GW	
8	子どもの成長発達②新生児期・乳児期の成長発達		講義・GW	
9	子どもの成長発達③幼児期の成長発達		講義・GW	
10	子どもの成長発達④学童期・思春期の成長発達		講義・GW ポストテスト	
11	子どもの成長発達に欠かせない環境整備		講義・GW	
12	子どもの成長発達に欠かせない栄養		講義・GW	
13	成長発達に応じた基本的生活習慣の獲得状況①		講義・GW	
14	成長発達に応じた基本的生活習慣の獲得状況②		講義・GW	
15	成長発達に応じた基本的生活習慣の獲得状況③		講義・GW ポストテスト	
	試験			
事前学習・事後学習内容			評価方法	
・周囲にいる子どもと家族の観察をしていきましょう。			ポストテスト（20点）	
・課題シートを用いて学習していきましょう。			課題提出（20点）	
			筆記試験（60点）	
使用するテキスト			参考文献	
・系統看護学講座 小児看護学概論・小児臨床看護総論（医学書院）			・小児看護学 （南江堂）	
・系統看護学講座 小児臨床看護各論（医学書院）			・医療を受ける子どもへの上手なかかわり方（日本看護協会出版会）	
受講生へのメッセージ				
・子どもの成長・発達を学び続けると、子どもの様々な力に気づきます。子どもの成長・発達に欠かせない事項を積極的に学んでいきましょう。				

科目名		学年学期	単位数	時間数
母性看護学概論		1学年後期	1	30
時間割表記名		講義担当教員		
母性看護学概論		専任教員 病棟助産師		
科目のねらい				
母性の概念および特徴について、身体的、心理的、社会的側面から総合的に学ぶ。				
またライフサイクル全般にわたる、それぞれの発達課題を理解し、母性看護の役割を学ぶ。				
学習目標 「生命尊重」や「生命倫理」について考え、母性の概念・特徴について学ぶことができる。				
人間の性の意義と生殖倫理のしくみを理解することができる。				
母性看護の対象を身体的・心理的・社会的側面からとらえ、対象の理解を深めることができる。				
母性看護の機能と役割を学ぶことができる。				
女性のライフサイクルにおける発達課題と健康上の問題を理解し、対象の健康保持への援助を学ぶことができる。				
母子保健の動向を知り、母性保護の意義と法的制度との関連を学ぶことができる。				
ディプロマ・ポリシーとの関連性				
☒ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く ☒ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 ☒ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 ☐ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 ☐ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける				
授業の流れ				
回	学習内容			方法・必要なもの
1	【母性看護の基盤となる概念】			
	母性・父性とは			
2	母子関係と家族発達			
	セクシュアリティ・リプロダクティブヘルス/ライツ			
	ヘルスプロモーション			
3	母性看護のあり方・倫理・安全・事故防止			
4	【母性看護の対象を取り巻く社会の返還と現状】			
	母性看護の歴史的変遷と現状・母子保健統計			
5	母性看護にかかわる法律・施設・母性看護の提供システム			ポストテスト①
6	【母性看護の対象理解】			
	女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化			
7	女性のライフサイクルと家族			
8	【女性のライフステージ各期における看護】			
	ライフサイクルにおける女性の健康と看護・思春期・性成熟期			
9	更年期・老年期の健康と看護			
10	【リプロダクティブヘルスケア】			
	家族計画・性感染症とその予防・HIVに感染した女性に対する看護			
11	人工妊娠中絶と看護・喫煙と女性の健康			
	性暴力を受けた女性に対する看護・児童虐待と看護			
12	【出生前からのリプロダクティブヘルスケア】			

	遺伝相談・出生前診断	
13	不妊治療と看護	ポストテスト②
14	【母性看護に必要な看護技術】	
	母性看護における看護過程・看護技術	
15	外国人妊産婦と家族への支援	講師：元青年海外協力隊
	試験	
事前学習・事後学習内容 事前にテキストを読んで受講してください。 領域実習や国家試験を意識しながら学習しましょう。		評価方法 ポストテスト10点（1回5点×2回） 課題提出10点 筆記試験80点
使用するテキスト 医学書院：母性看護学概論・母性看護学各論		参考文献 漫画コウノドリ ウエルネスからみた母性看護過程 ウエルネスの視点にもとづく母性看護過程
受講生へのメッセージ 母性看護学は、母性だけではなく、父性も関係しています。法的制度から生命尊重や生命倫理についてなど学ぶことが多い内容ですが、今後役に立つ内容です。どのような内容を学んでいくか、事前にテキストに目を通してから学習していきましょう。		

科目名 精神看護学概論	学年学期	単位数	時間数
	1学年 後期	1	30
	講義担当教員		
時間割表記名 精神看護学概論	専任教員		
科目のねらい			
人間のライフサイクルにおける心の発達をふまえ、心の健康の保持・増進に寄与する精神看護の機能と役割について学ぶ。また、精神医療・看護の変遷を学び、患者の権利や精神障害者の処遇をめぐる課題について理解できる。			
学習目標			
1. 心の発達と健康に関する理解を深め、環境により心の動きが影響されることについて考える。			
2. リエゾン精神医療・看護について理解できる。			
3. 現代社会に生きる人々の心の健康の維持・増進、回復への看護が理解できる。			
4. 精神保健・医療・福祉の法律・制度および社会資源の活用について理解できる。			
ディプロマ・ポリシーとの関連性			
☒ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く			
☒ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度			
☒ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践			
☐ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割			
☐ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける			
授業の流れ			
回	学習内容		方法・必要なもの
1	脳の仕組みと精神機能 ・脳・神経の構造 ・認知機能と神経基盤 ・サーカディアンリズム		講義
2	精神保健で扱われる現象 精神的健康の保持・増進 ・精神の健康（メンタルヘルス、ストレスマネジメントなど） ・地域精神保健における第一次予防・二次予防・三次予防 ・精神看護とは		講義
3	精神の構造とはたらき ・精神力動理論、欲動論、自我の防衛機制、関係精神分析、対象関係論、理論の意義と限界、発展		講義
4	精神（心）の発達 ・エリクソンの発達理論、ボウルビイの愛着理論、マラーとスターンの発達理論、		講義
5	マズローの理論、ピアジェの認知発達理論、フロイトのリビドー説（アイデンティティ、愛着、自己実現など）		

6	家族と精神（心）の健康 暮らしの場と精神（心）の健康	講義
7	精神（心）の危機と精神保健 ・危機管理・危機モデル、ストレスとストレスコーピング、適応と不適応、セルフマネジメント	講義
8	我が国の精神看護の発展 ・リエゾン看護 ・災害時地域精神保健医療活動と心のケア	講義 ポスト テスト
9	精神医療・看護の対象者：精神（心）を病むということ ・精神障害とスティグマ・精神障害とともに生きる	講義
10	精神保健医療福祉の歴史と現在の姿 ・精神医療の歴史 ・諸外国における精神医療の歴史と現在	講義
11	・日本における精神医療の歴史と現在 ー精神障害者の戦後70年（病院か地域か）ー ・精神障害をもつ人を守る社会資源と多職種連携	講義
12	ー精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の運用ー ・入院医療の形態 ・入院患者の処遇とアドボカシー（隔離・拘束、CVPPPなど）	講義
13	現代社会と精神（心）の健康 ・現代社会の特徴 ・精神保健が関与する社会病理現象	講義
14	・DV・ひきこもり・ハラスメント・自殺・不登校・いじめ・LGBT ・自傷行為・虐待・アルコール問題・薬物問題・犯罪非行 ・ギャンブル依存・IT依存など	講義
15	・認知行動療法 ・アサーショントレーニング	講義 ポスト テスト
	試験	
事前学習・事後学習内容		評価方法
1. 事前にテキストを読んで受講して下さい。		ポストテスト10点×2回=20点 筆記試験 80点
使用するテキスト		
精神看護の基礎：医学書院		
精神看護の展開：医学書院		
受講生へのメッセージ		
人間の心の発達や健康など基本的な理論を中心に学びます。自分自身の心の動きなどに関連させながら精神（心）について考えて行きましょう。また心の学びは、精神障害に限らず看護のすべての対象理解や看護実践へつながります。自分の心にも問いかけながら精神看護に興味を持ち学んでいきましょう。		

科目名		学年学期	単位数	時間数
地域・在宅看護援助論 ZERO		1 学年 後期	1	20
時間割表記名		講義担当教員		
地域・在宅看護援助論ZERO		専任教員		
科目のねらい				
1. 人々がくらす地域に目が向き、人々を支えている地域のつながりを知る。				
2. 佐久地域の特徴や在宅での生活の様子について知ることができ、在宅看護における支援の基盤を学ぶ。				
学習目標				
1. 私たちのくらしを支えている地域のつながりから、くらしの中にある看護を意識することができる。				
2. 地域の社会資源を通じて人々のくらしを支えている社会のつながりを理解することができる。				
ディプロマ・ポリシーとの関連性				
☒ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く ☒ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 ☐ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 ☐ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 ☐ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける				
授業の流れ				
回	学習内容			方法・必要なもの
1	くらしのなかにある看護 私たちのくらしを支えているつながり			講義
2	地域のなかにあるくらし 地域社会とは何か 地域社会と人々との関係 地域における看護の実践			講義・ポストテスト①
3	佐久地域の特徴 臼田地区の社会資源について グループワーク演習 訪問介護・デイサービス・デイケアについて			グループワーク①
4	臨地授業オリエンテーション 臨地場所について 訪問マナーについて			講義・ポストテスト②
5	臨地授業 臼田地区の以下の7か所			臨地演習 クラス別4 グループに分かれ 臨地で参加観察を行う
6	1. 星の里訪問介護ステーション			
7	2. 星の里デイサービスセンター			
8	3. 養護老人ホームコスモ園 訪問介護			
7	4. 特別養護老人ホームコスモ園			グループワーク②
8	5. 佐久老健デイケア			
	6. 地域の保健室「はぐみ」 臼田健康館			
9	7. 地域のよりあい「えんがわぼっこ」 臼田公民館			グループワーク③
9	地域・在宅演習 まとめ グループワーク演習			
10	地域・在宅演習 グループワーク 発表			
事前学習・事後学習内容		評価方法		
授業のテキスト範囲を1回読み授業に臨んでください。		ポストテスト10点（5点×2） グループワーク課題提出90点		
使用するテキスト		参考文献		
地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院				
地域医療のメッカと言われる佐久地域の特徴を地域でくらす人々の生活の視点から考えられるように学んでもらいます。演習では実際に地域へ出向き人々のくらしを感じ学んでもらい、成果をグループワークで発表し共有してもらいます。				

科目名		学年学期	単位数	時間数
地域・在宅看護概論		1 学年 後期	1	30
時間割表記名		講義担当教員		
地域・在宅看護概論		専任教員・介護支援専門員		
科目のねらい				
1. 暮らしの中の看護や家族はどのように変遷してきたのか、在宅看護の必要性を学ぶ。 2. 地域にくらす家族を対象とした看護を学ぶ。 3. 暮らしを支える看護にかかわるシステムを知り、在宅看護の役割を学ぶ。				
学習目標				
1. 近代看護の歴史から時代の要請に応える看護を理解できる。 2. 家族看護の定義や家族理論から家族看護の対象を理解し援助の実際から看護の役割を理解できる。 3.在宅ケアシステムにおける看護師の役割を理解する。				
ディプロマ・ポリシーとの関連性				
■	1. 感じ取る力	価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く		
■	2. 実践する力	専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度		
■	3. 実践する力	地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践		
□	4. 連携・協同する力	多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割		
□	5. 成長する力	専門職業人としての自覚・自ら学び続ける		
授業の流れ				
回	学習内容		方法・必要なもの	
1	近代看護の歴史① 在宅看護の歩み 明治～高齢化社会突入まで		専任教員 講義	
2	近代看護の歴史② 介護保険制度の創設移行		講義	
3	地域でくらす家族を対象とした看護① 家族の定義 家族の機能		講義・ポストテスト①	
4	地域でくらす家族を対象とした看護② 家族を理解するための基礎理論		講義	
5	地域でくらす家族を対象とした看護③ わが国の家族の特徴 介護をする家族の理解		講義	
6	地域でくらす家族を対象とした看護④ 家族看護の目的 援助対象の理解		講義	
7	地域でくらす家族を対象とした看護⑤ 家族への援助 事例展開		グループワーク・ポストテスト②	
8	地域でくらす家族を対象とした看護⑥ 在宅看護のポイント 家族看護の実践		講義	
9	暮らしを支える看護に関わるシステム① 地域包括ケアシステムにおける在宅ケア		講義	
10	暮らしを支える看護に関わるシステム② 訪問看護サービス		講義	
11	暮らしを支える看護に関わるシステム③ 暮らしの危機に備える		講義・ポストテスト③	
12	在宅ケアシステム① 在宅看護にかかわる法令・制度とその活用		介護支援専門員 講義	
13	在宅ケアシステム② 介護保険制度 介護支援専門員の役割と活動		講義	
14	在宅ケアシステム③ ケアマネジメントと社会資源の活用		講義	
15	地域包括ケアシステム 地域包括支援センターについて		講義	
	筆記試験			
事前学習・事後学習内容			評価方法	
授業のテキスト範囲を1回読み授業に臨んでください。			ポストテスト 15点（5点×3回） 筆記試験 85点	
使用するテキスト		参考文献		
地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院		家族看護を基盤とした 地域・在宅看護論 第6版 日本看護協会出版会		
受講生へのメッセージ				
地域・在宅看護援助論ZEROで学んだことを活かしながら、家族看護・在宅ケアシステムを学び地域・在宅看護援助論につなげていきます。また授業では介護支援専門員、社会福祉士さんから実践を踏まえた講義をしていただきます。				

科目名		学年学期	単位数	時間数
		1学年前期	1	15
健康を維持するための活動Ⅰ				
時間割表記名		講義担当教員		
健康を維持するための活動Ⅰ		専任教員・健康管理科（保健師：指導者）		
科目のねらい				
自身の健康に関心を持ち、かつ適切な健康管理が自ら行えるように理論と具体的な方法を学ぶ。				
学習目標				
1 健康への理解を深め、健康意識をそだて、自らの健康観をもつ必要性を理解する。				
2 人々の健康状態と保健の動向を学ぶ				
3 健康管理の基本を実践できる。				
ディプロマ・ポリシーとの関連性				
■ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く ■ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 ■ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 □ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 □ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける				
授業の流れ				
回	学習内容		方法・必要なもの	
1	健康の概念（健康とは、WHO定義、看護理論家と健康） 健康の指標（健康政策・健康に影響する因子） 健康教育 健康教育とは、健康教育と行動変容、		講義:白田	
2	健康教育の内容 自己管理ヘルススクリーニングの意味		講義：池田	
3	ヘルススクリーニングの報告 と月々の管理方法（健康手帳の活用） 自分の健康維持のポイントを考える		講義：保健師 健康台帳作成提出①：白田	
4	ライフサイクルと健康① 発達課題の特徴と健康 乳児期・学童期・思春期の健康		講義：白田	
5	ライフサイクルと健康② 青年期・成人期・高齢期の健康		講義：白田	
6	ライフサイクルと健康③ 妊娠期・産褥期の健康・障害者の健康と健康の危機管理		講義：白田	
7	自分の健康と指導準備（終了時提出）		演習（提出課題②） 発表会参加状況 白田・池田	
8	発表会			
事前学習・事後学習内容		評価方法		
地域に出て、パンフレットリーフレットを観察する。		提出課題①20点：複数提出 提出課題②20点：複数提出 発表者11点（発表会参加表49点） 発表会参加評価表49点		
使用するテキスト		参考文献		
基礎看護学〔2〕基礎看護技術（医学書院）				
受講生へのメッセージ				
自身の健康管理、ヘルススクリーニングを通じて、健康段階を知る。自分の管理や指導の方法を観察して自分にどのような学習が必要か考え、今後の健康・看護を意識できるようにしましょう。				
* 今回の提出物は、月の自己管理・健康維持Ⅱで使用しますので、管理してください。				